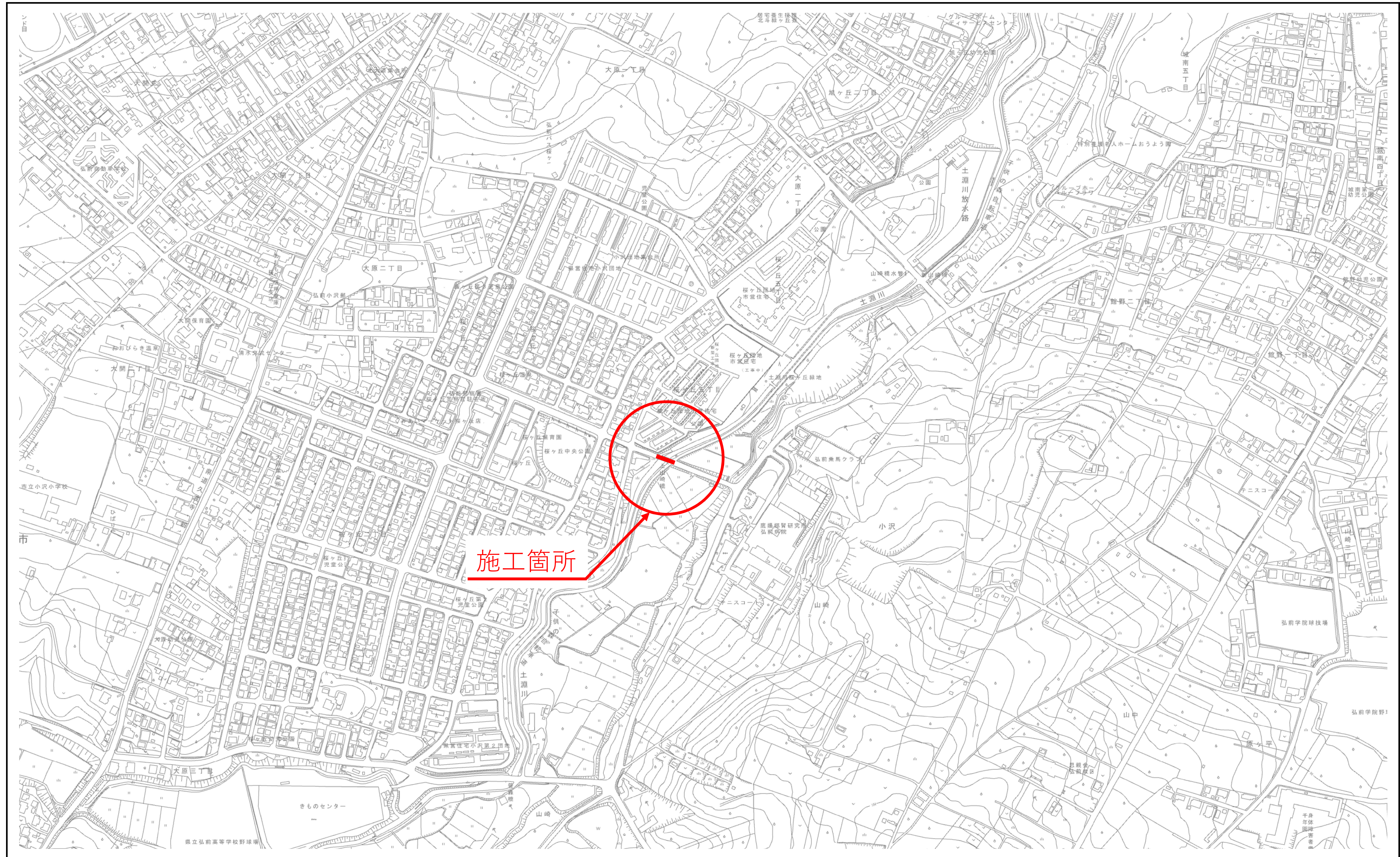
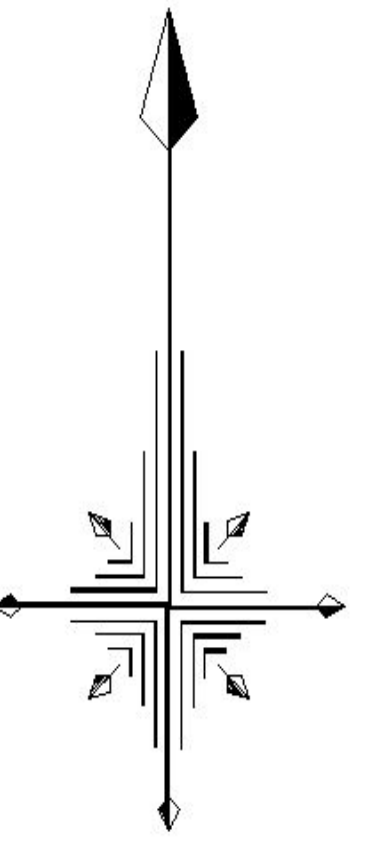


位置図

工事名：令和6年度 上山崎橋橋梁補修工事

S = 1 : 5,000

弘前市



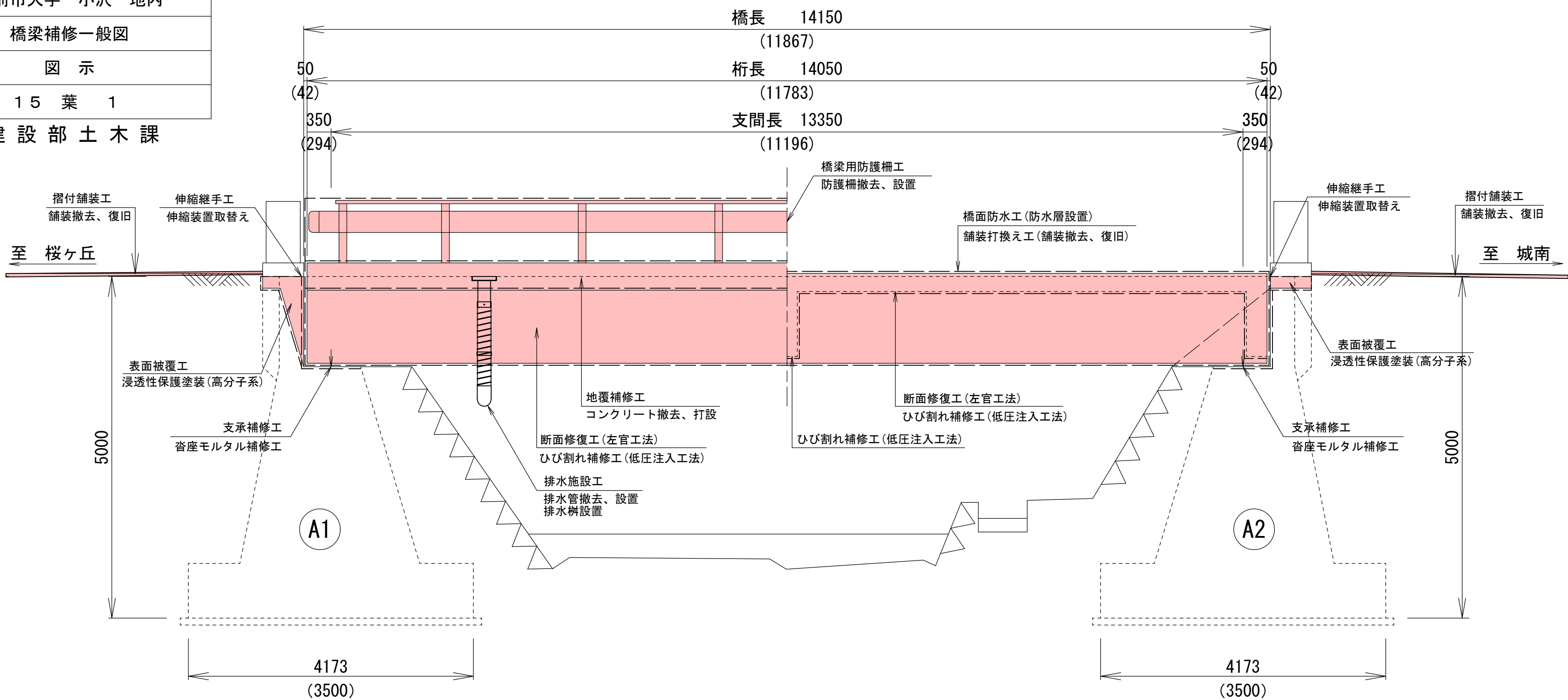
年 度	令 和 7 年 度
工 事 名	令和6年度 上山崎橋 橋梁補修工事
路 線 名	桜ヶ丘12号線
施工箇所	弘前市大字 小沢 地内
図面名称	橋梁補修一般図
縮 尺	図 示
図面番号	1 5 葉 1

弘前市建設部土木課

橋梁補修一般図

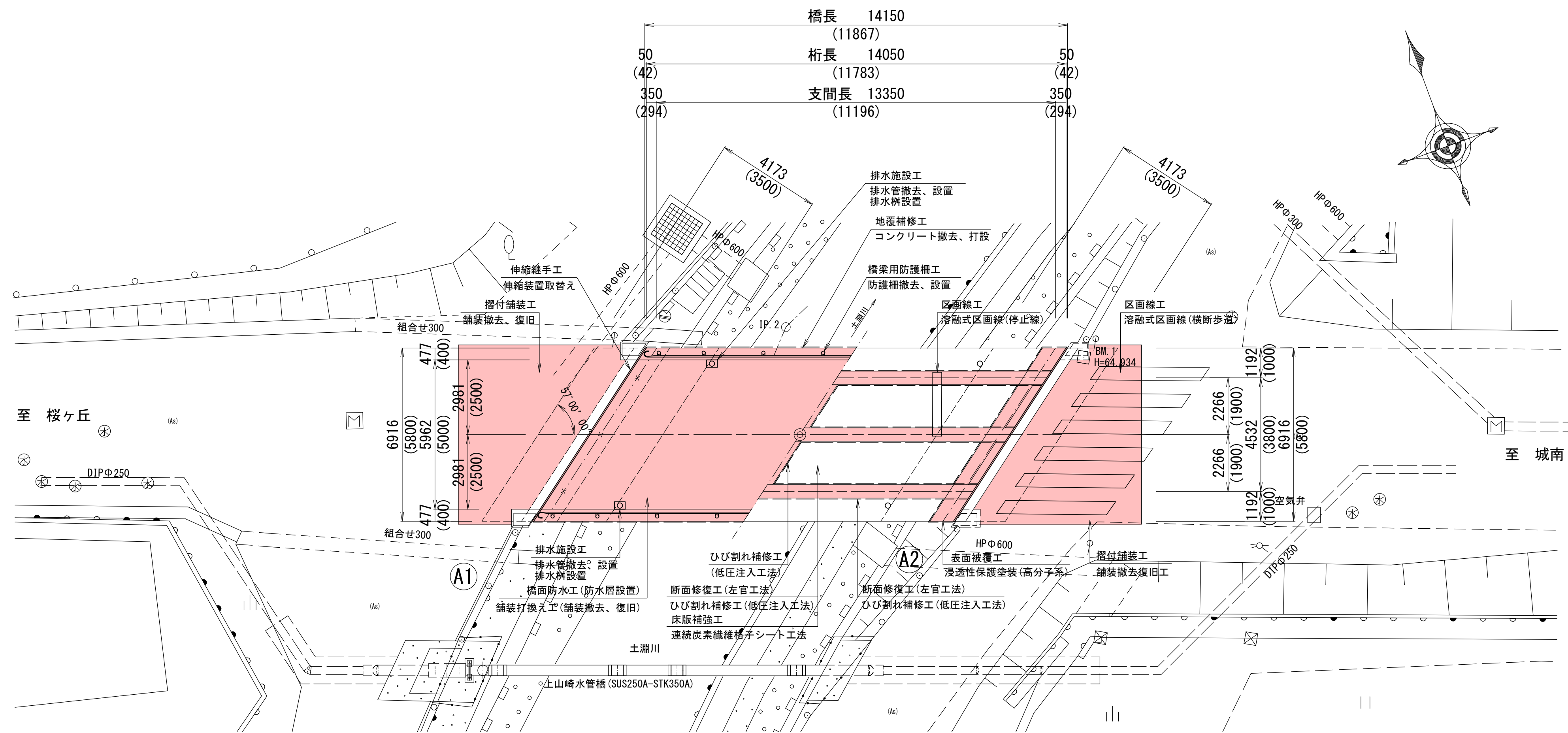
側 面 図

S=1：50



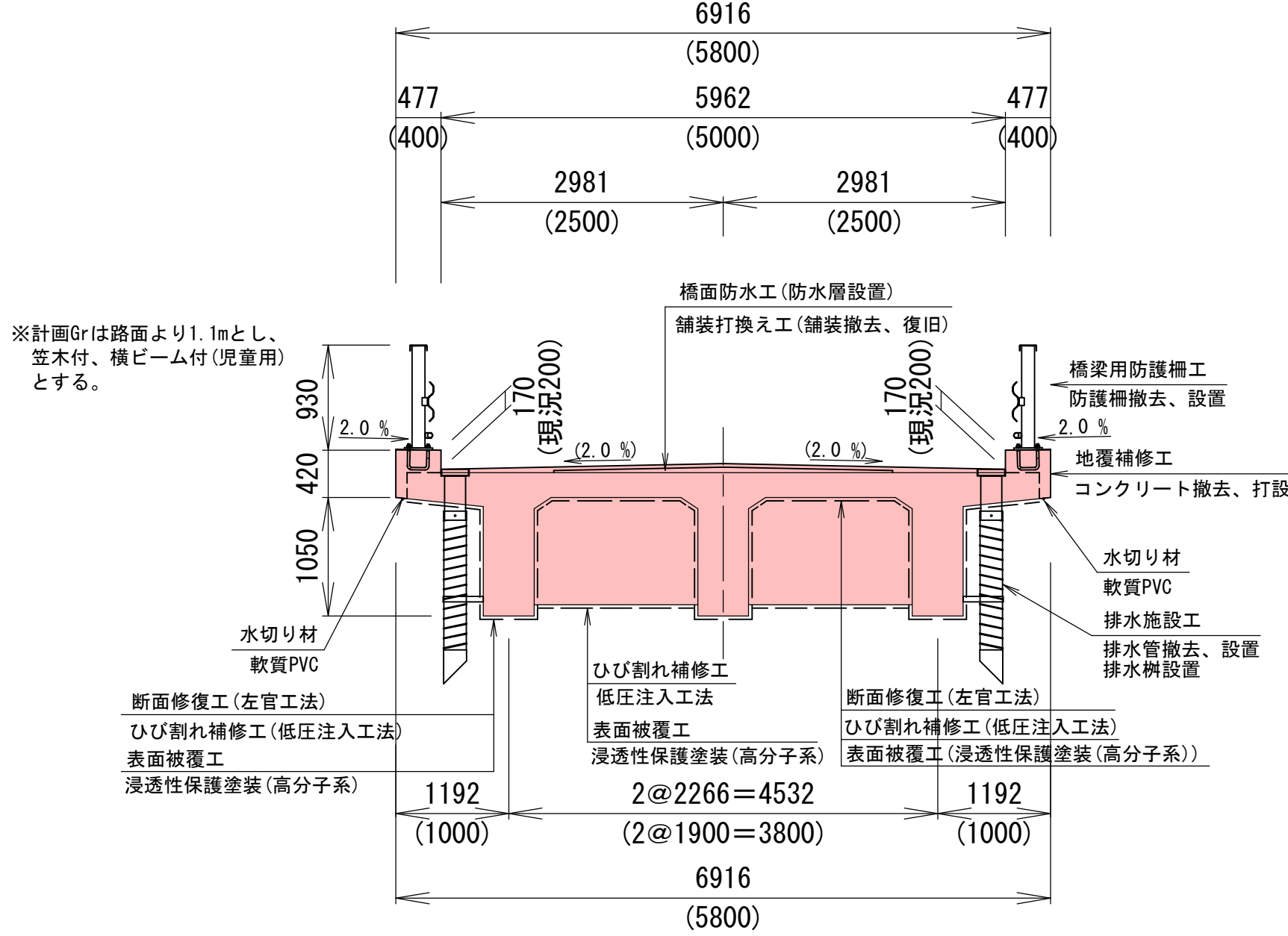
平 面 図

S=1：100



断 面 図

S=1：50



注記： 図上の上段寸法は、橋軸方向及び河川流向の数値である。

また、下段の()内寸法は、橋軸に対し直角方向及び河川流向に対し直角方向の数値である。

橋梁補修一覧表		
部材名	補修対策	対策工法
床 版	断面修復工	左官工法(※リペアメント樹脂)
	ひび割れ補修工	低圧注入工法(※杉樹脂)
	表面被覆工	浸透性保護塗装(高分子系)
	床版補強工	連続炭素繊維格子シート工法
主 桁	断面修復工	左官工法(※リペアメント樹脂)
	ひび割れ補修工	低圧注入工法(※杉樹脂)
横 桁	ひび割れ補修工	低圧注入工法(※杉樹脂)
支 承	支承補修工	沓座モルタル補修工
橋 面	橋面防水工	防水層設置
	舗装打換え工	舗装撤去、復旧
地 覆	地覆補修工	コンクリート撤去、打設
区画線	区画線工	溶融式区画線
伸縮装置	伸縮継手工	伸縮装置取替え
橋梁付属物	橋梁用防護柵工	防護柵撤去、設置
	排水施設工	排水管撤去、設置
	排水施設工	排水管撤去、設置
	排水施設工	排水管撤去、設置
摺付部	摺付舗装工	舗装撤去、復旧

設 計 条 件		
橋 名	上 山 崎 橋	
路 線 名	市道 桜ヶ丘12号線	
架橋条件	一級河川 土淵川(管理者:青森県)	
竣工年月日	昭和51年 3月 ※橋齢49年	
上 部 構 造	設計活荷重	TL-14
	形 式	単純RCT桁
	橋 長	14.150m (1径間)
	支 間 長	13.350m
	幅 員	2.50m + 2.50m = 5.00m
	支 承	ゴム支承
下 部 構 造	斜 角	57° 00' 00"
	駆 体	重力式橋台
形 式	基 礎	直接基礎

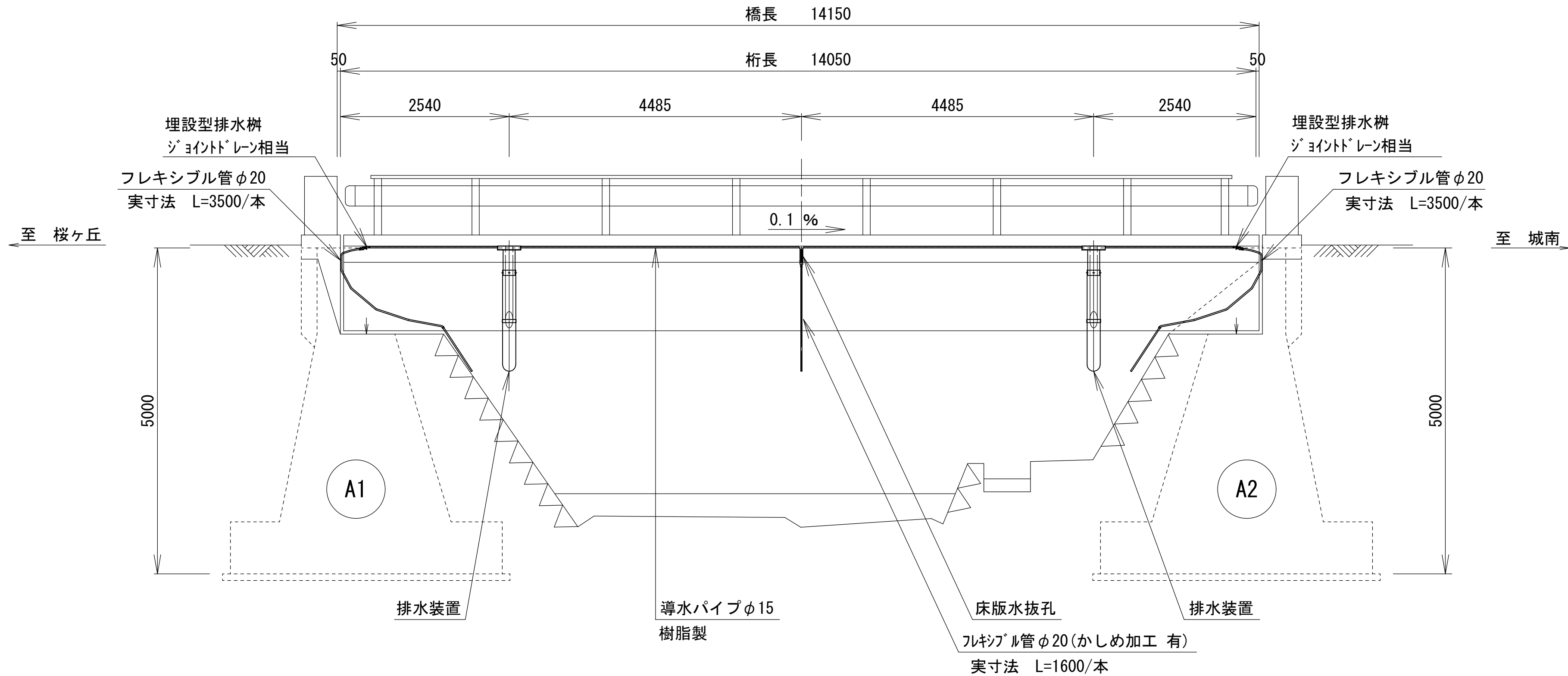
年 度	令 和 7 年 度
工 事 名	令和6年度 上山崎橋橋梁補修工事
路 線 名	桜ヶ丘12号線
施工箇所	弘前市大字 小沢 地内
図面名称	橋面防水工図(1)
縮 尺	図 示
図面番号	1 5 葉 2

弘 前 市 建 設 部 土 木 課

橋面防水工図(1)

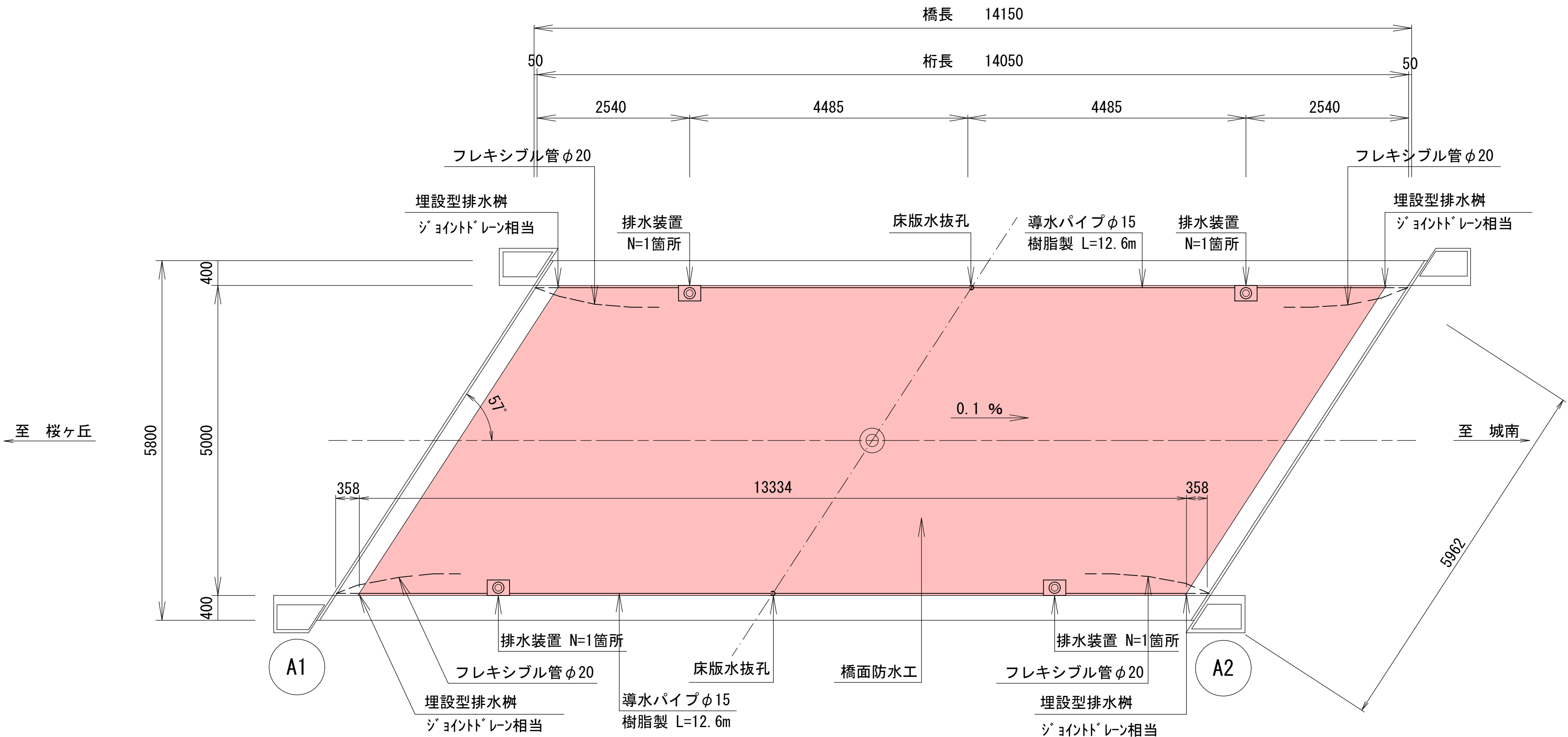
側 面 図

S=1 : 50



配 置 図

S=1 : 50



年 度	令 和 7 年 度
工 事 名	令和6年度 上山崎橋橋梁補修工事
路 線 名	桜ヶ丘12号線
施工箇所	弘前市大字 小沢 地内
図面名称	橋面防水工図(2)
縮 尺	図 示
図面番号	15 葉 3

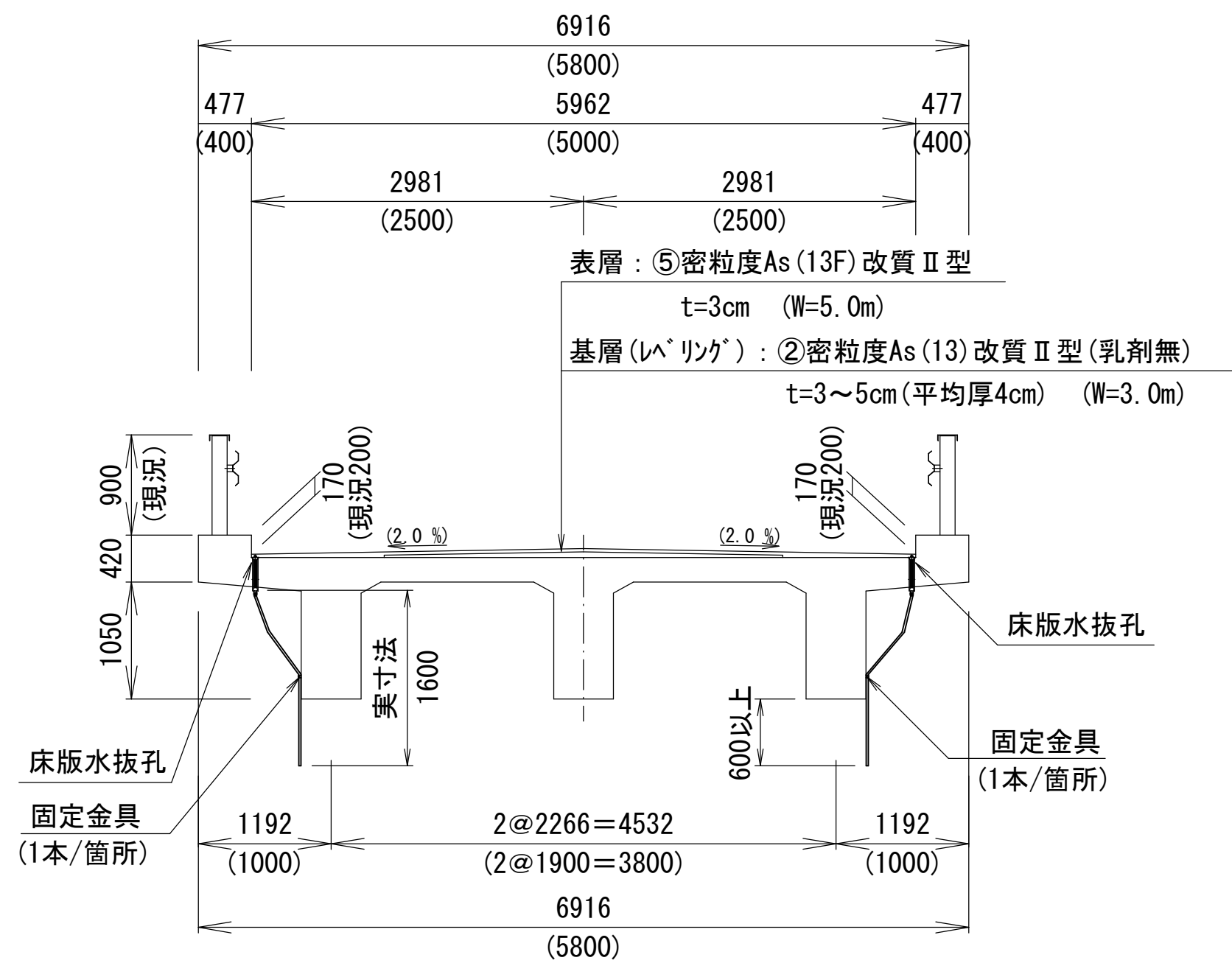
弘前市建設部土木課

橋面防水工図(2)

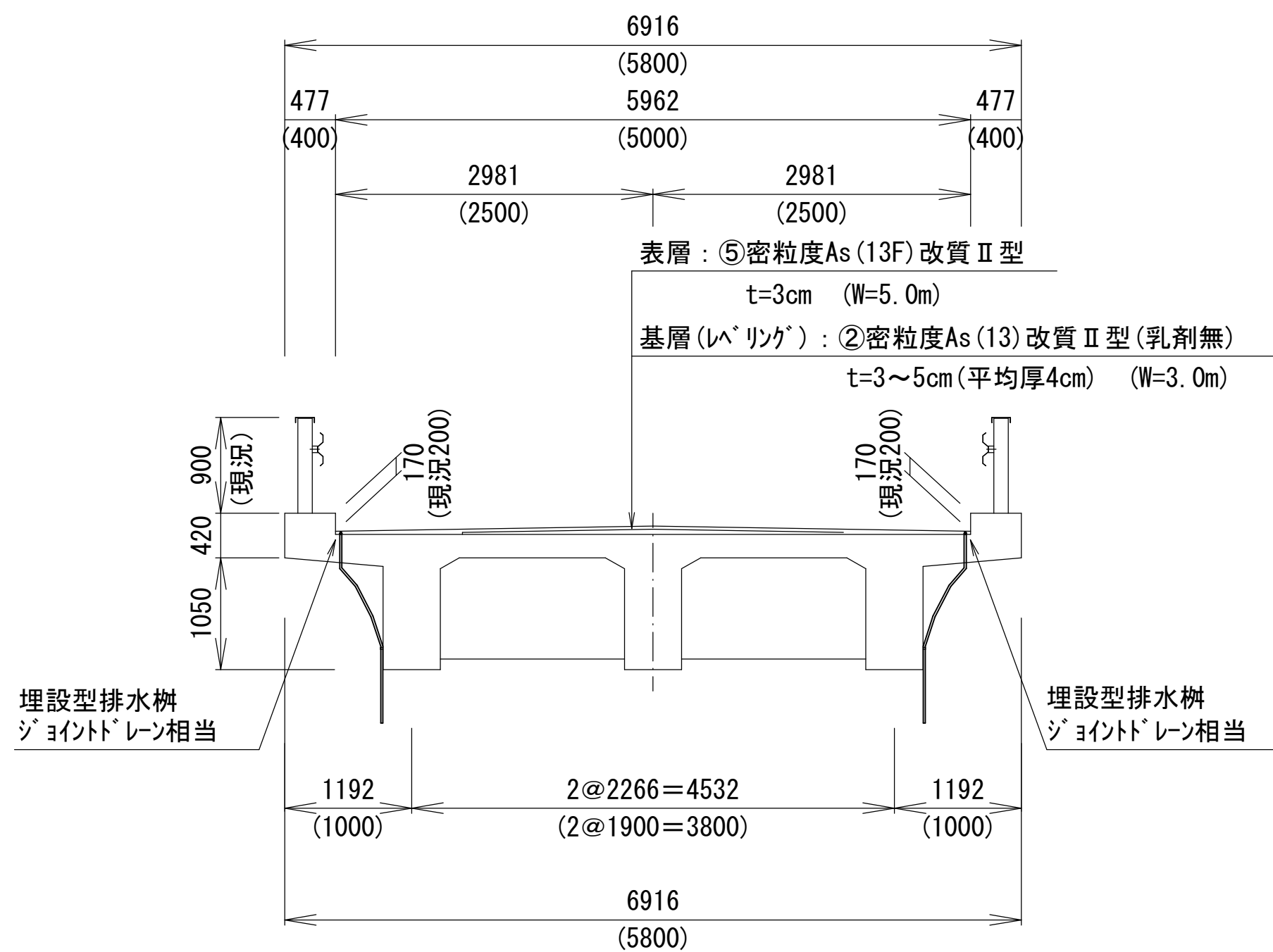
断面図

S=1 : 50

一般部



端部

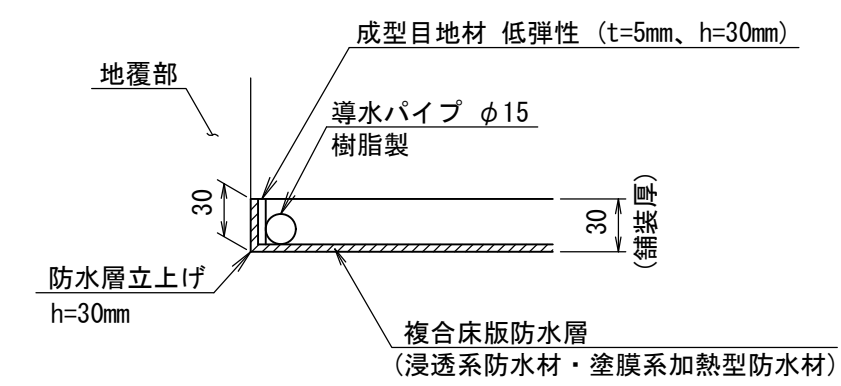


注記： 図上の上段寸法は、河川流向の数値である。

また、下段の()内寸法は、橋軸に対し直角方向の数値である。

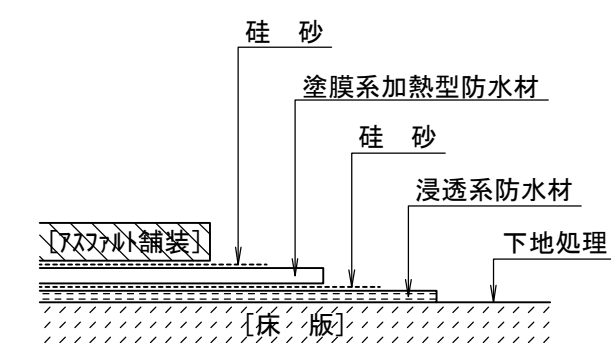
橋面防水端部処理

S=1:5



防水層詳細図

S=1:5



弘前市建設部土木課

平面图

S=1 : 50



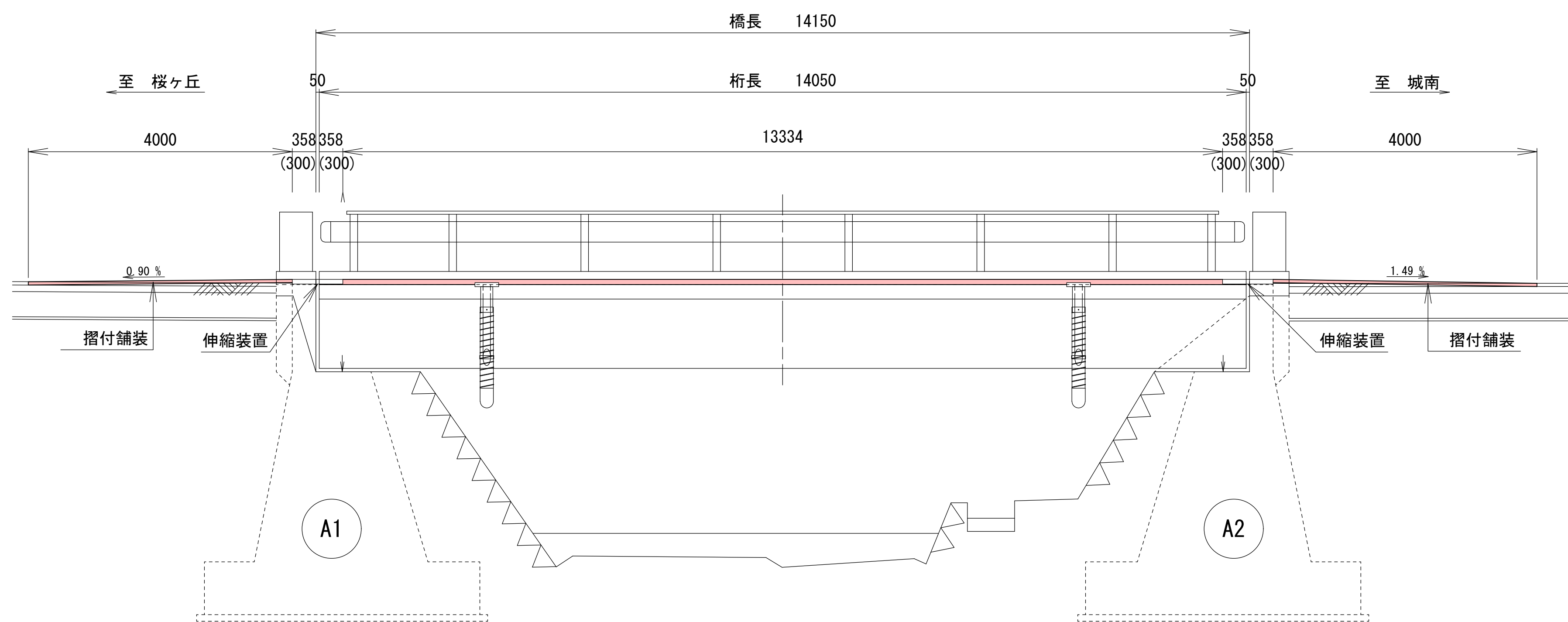
S=1 : 50

断面図

S=1 : 50

摺付部舗装構成図

$S=1 : 20$



年 度	令 和 7 年 度
工 事 名	令和6年度 上山崎橋橋梁補修工事
路 線 名	桜ヶ丘12号線
施工箇所	弘前市大字 小沢 地内
図面名称	伸縮継手工図
縮 尺	図 示
図面番号	1 5 葉 5

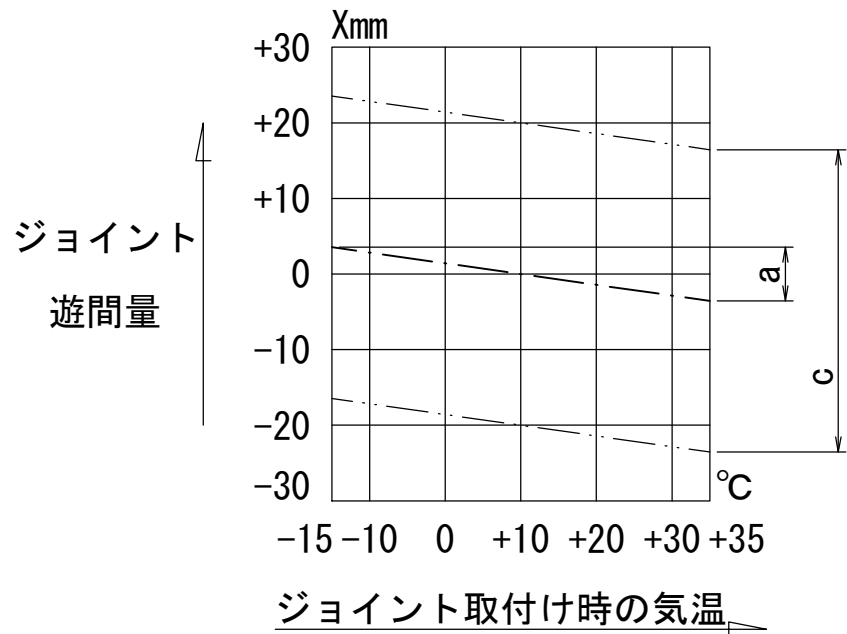
弘 前 市 建 設 部 土 木 課

設計条件

橋梁条件	
温度範囲	-15℃～+35℃
標準温度	+10℃
橋長	14.150m
伸縮桁長	14.050m
伸縮移動量	
温度変化	7.1mm
常時移動量	17.1mm
伸縮装置許容量	
許容伸縮量	60mm
適応遊間	82mm

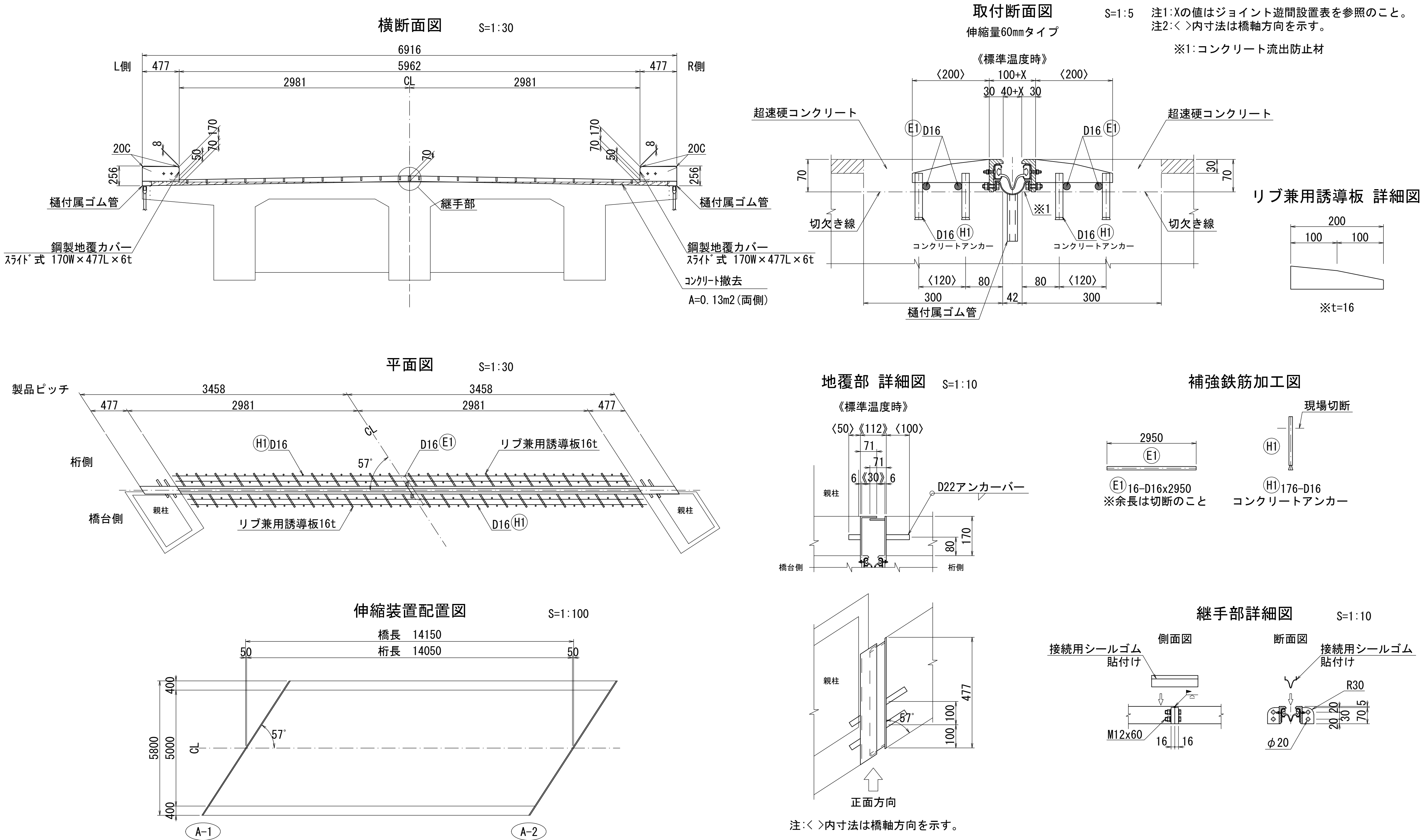
注1:常時移動量には10mmの余裕量を含む。
注2:伸縮装置は遊間を跨ぐものとする。

ジョイント遊間設置表



「ジョイント遊間設置表」解説
1:表は図中のXの値を示す。
2:a=温度変化
3:c=(適応遊間値-遊間値) または、
c=(伸縮装置伸縮量-常時伸縮量)
4:標準温度 +10℃ (H29道示 I 共通編8.10)
5:1℃当りの伸縮量=温度変化/全温度
6:現場設置時は現地の温度{気温}を確認し、
適切な設置幅を決定する事。
7:Xは標準温度時X=0mmとする。
8:Xの算出は次式による。
X=(標準温度-気温)×(温度変化/全温度)

伸縮継手工図



※:二次止水ホース(φ19x5m)、ニップル付き

※現場手配とする。

≒74

年 度	令 和 7 年 度
工 事 名	令和6年度 上山崎橋橋梁補修工事
路 線 名	桜ヶ丘12号線
施工箇所	弘前市大字 小沢 地内
図面名称	排水施設工図(2)
縮 尺	図 示
図面番号	1 5 葉 7

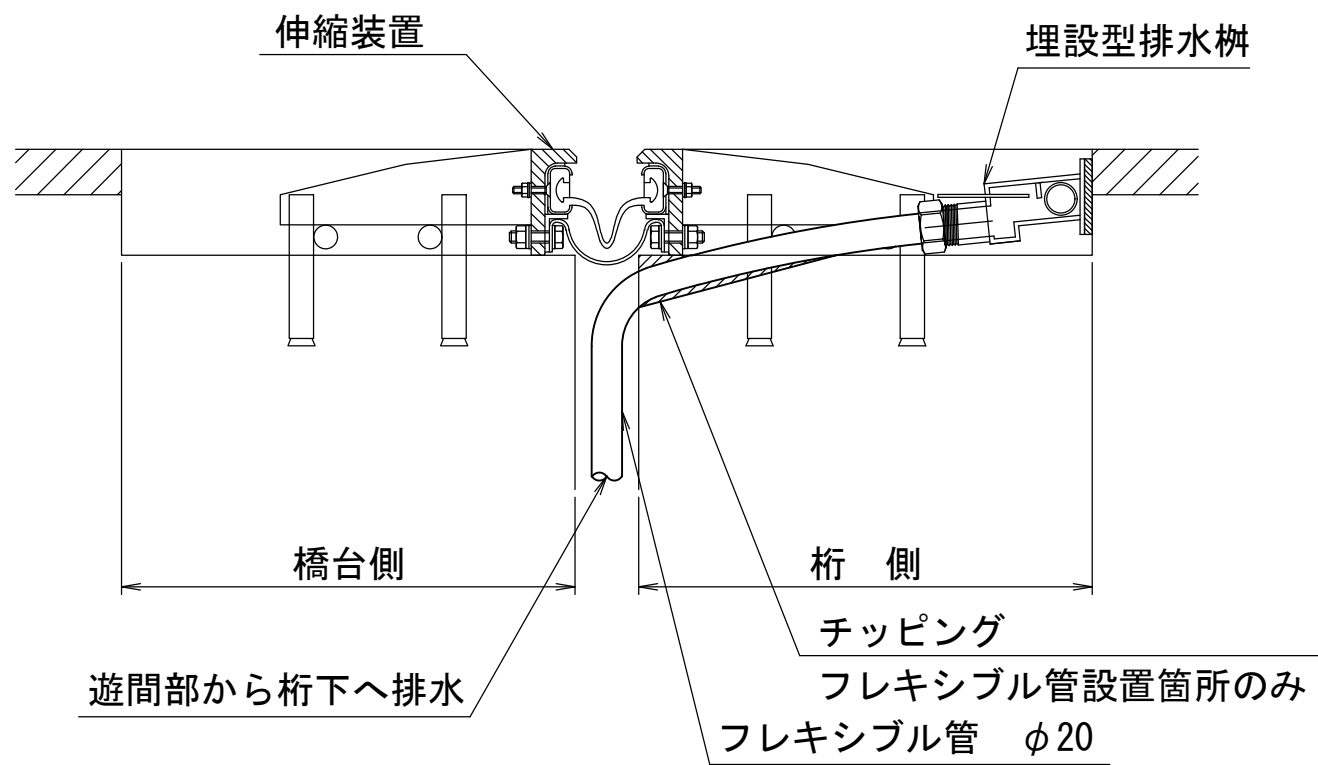
弘 前 市 建 設 部 土 木 課

排水施設工図(2)

埋設型排水柵断面図

S=1/5

ジョイント・レン相当



数量表

名 称	規格・寸法	数 量	摘 要
埋設型排水柵	ジョイント・レン相当	4 箇所	車道部

数量表 (1箇所あたり)

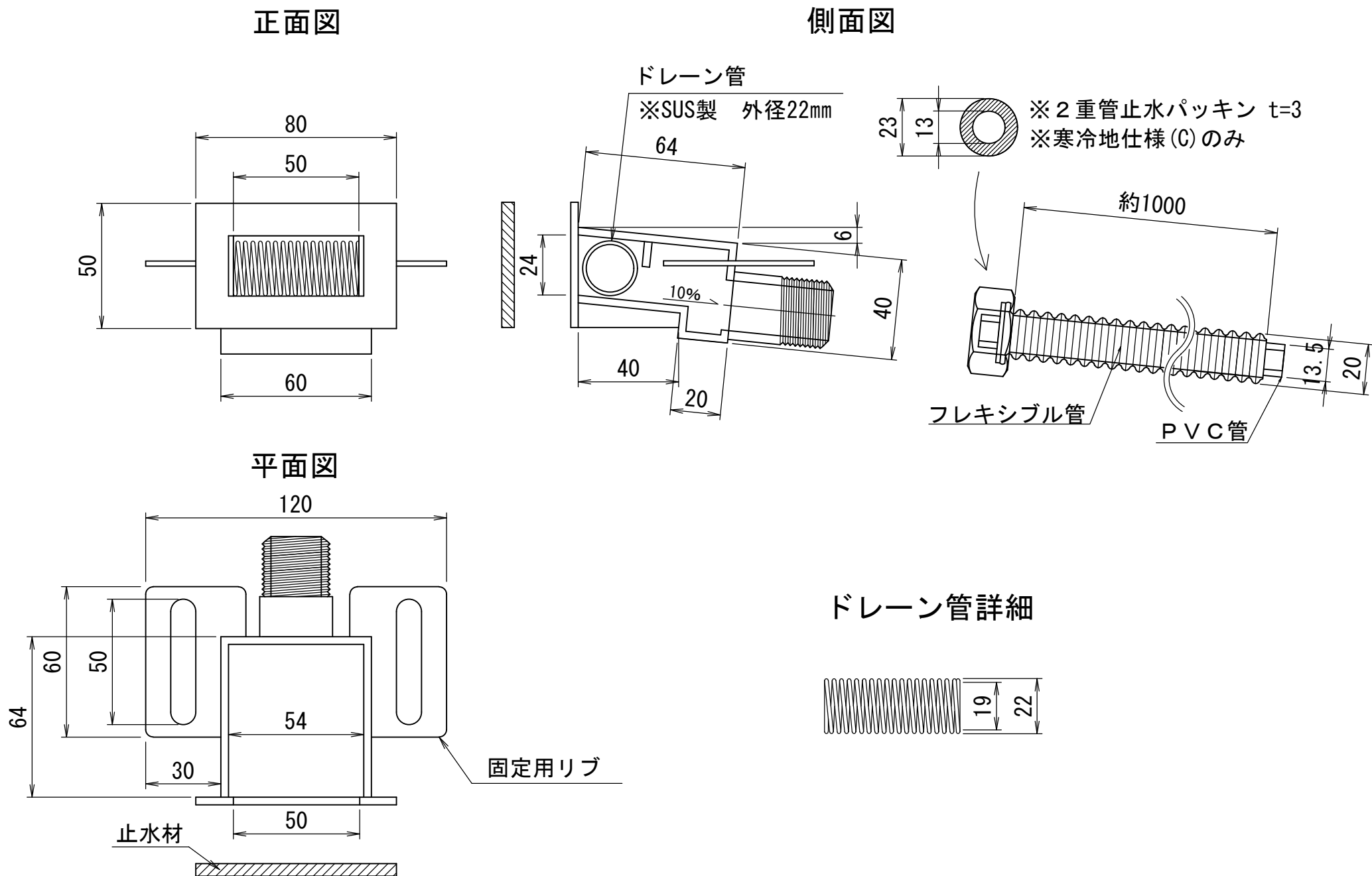
名 称	規格・寸法	数 量	摘 要
本体鋼材	SUS304 t=3mm	1 式	
固定用リブ	SUS304 t=2mm	1 式	
止水材	水膨潤ブチル系 t=5mm	1 式	
フレキシブル管	SUS304 L=3500 φ20 (15) mm	1 本	
PVC管	耐圧軟質塩化ビニール φ13.5 (8) mm	1 本	
ドレーン管	SUS製 φ22 (19) mm	1 本	
固定用付属品	M8 拡張アンカー 寸切ボルト N・W	1 式	
固定金具	φ20用サドルバンド コンクリートアンカー	2 箇所	

※ 埋設型排水柵の詳細設置位置は現地を確認して決定する。

※ 排水パイプの詳細取付け位置及び長さは現地を確認して決定する。

埋設型排水柵詳細図

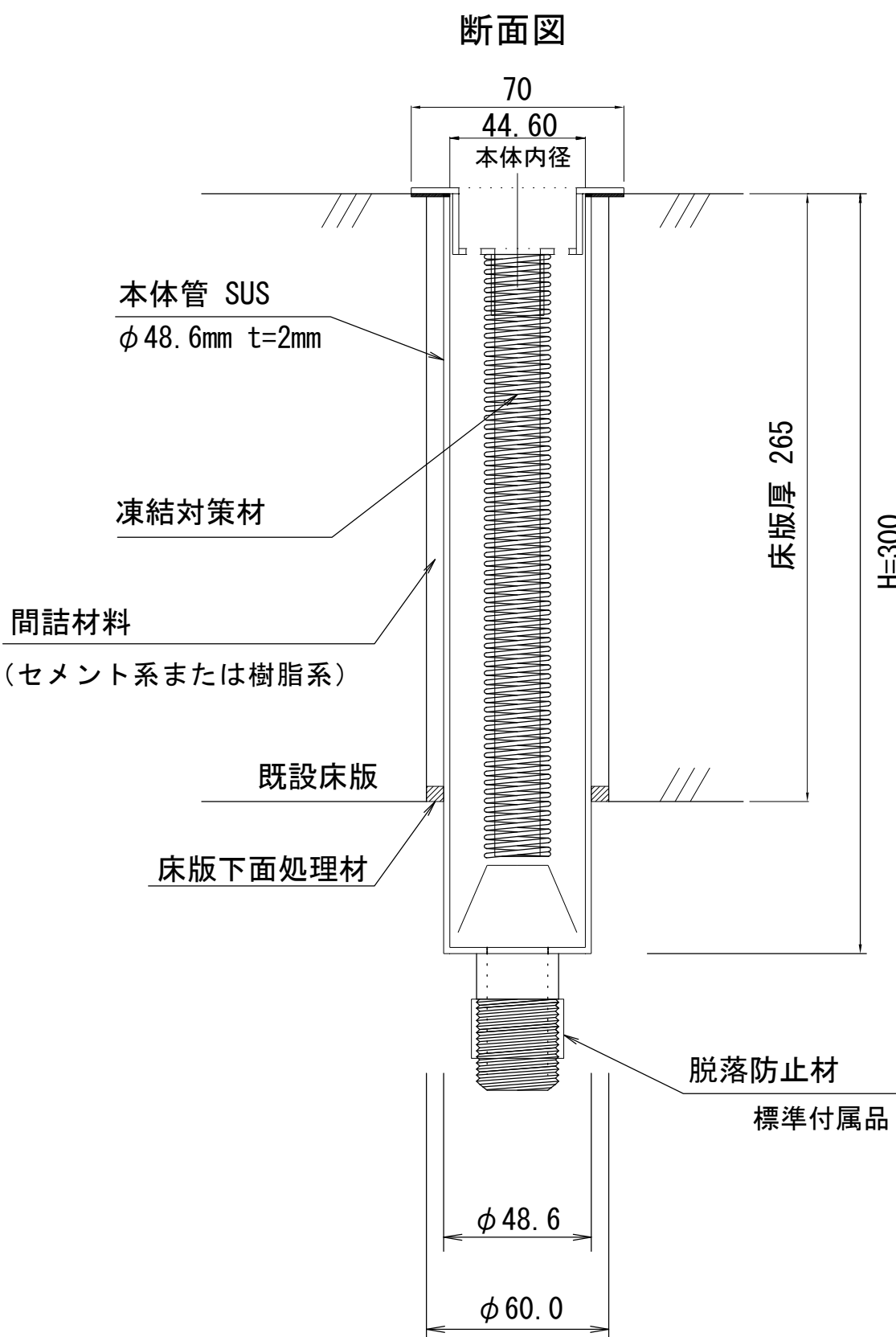
S=1/2



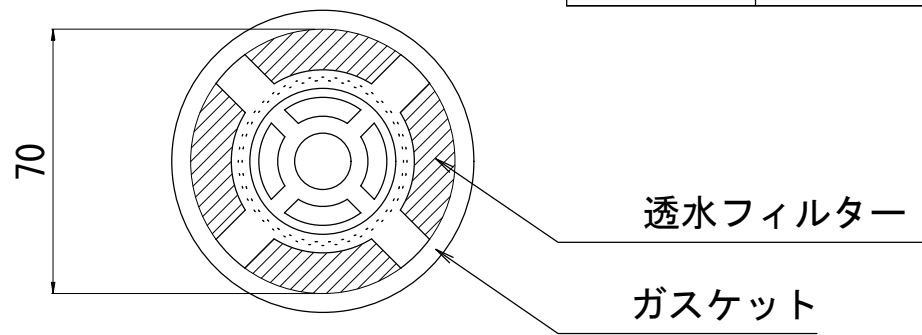
床版水抜孔製品図

S=1/2

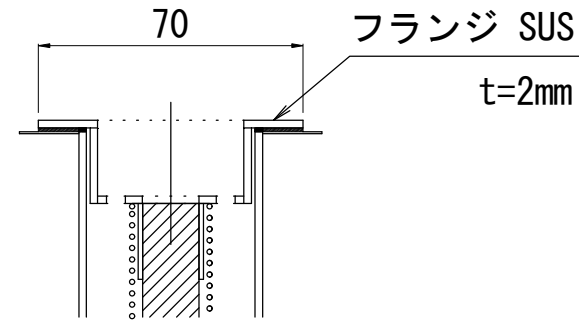
高機能床版水抜パイプ相当



平面図



断面図

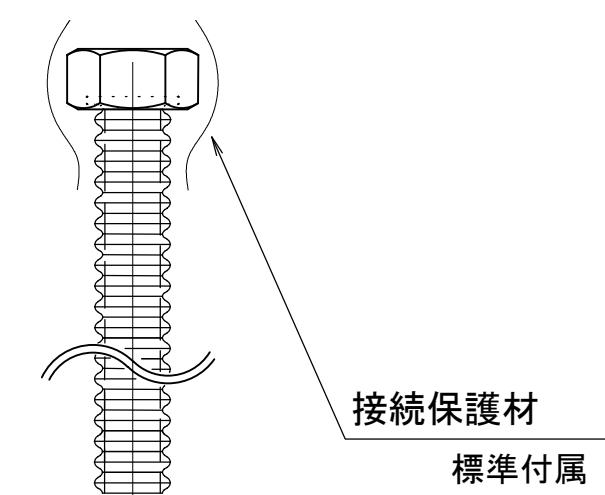


数量表 (1基あたり)

名 称	規格・寸法	数 量	備 考
本体管	SUS304 φ48.6	1式	
透水フィルター	透水性フィルター暴露対応型	1式	
ガスケット	t=0.5	1式	
凍結対策材	独立気泡発泡内装コイル	1式	
接続保護材	内径収縮率50%以上 L=80	1本	
脱落防止材	ダブルナット方式	1個	
フレキシブル管	SUS304 L=1600 φ20	1本	かしめ加工 有
固定金具	φ20用サドルバンド コンクリートアンカー	1本	拡張アンカー 寸切ボルト M・H

流末処理

(接続する場合)

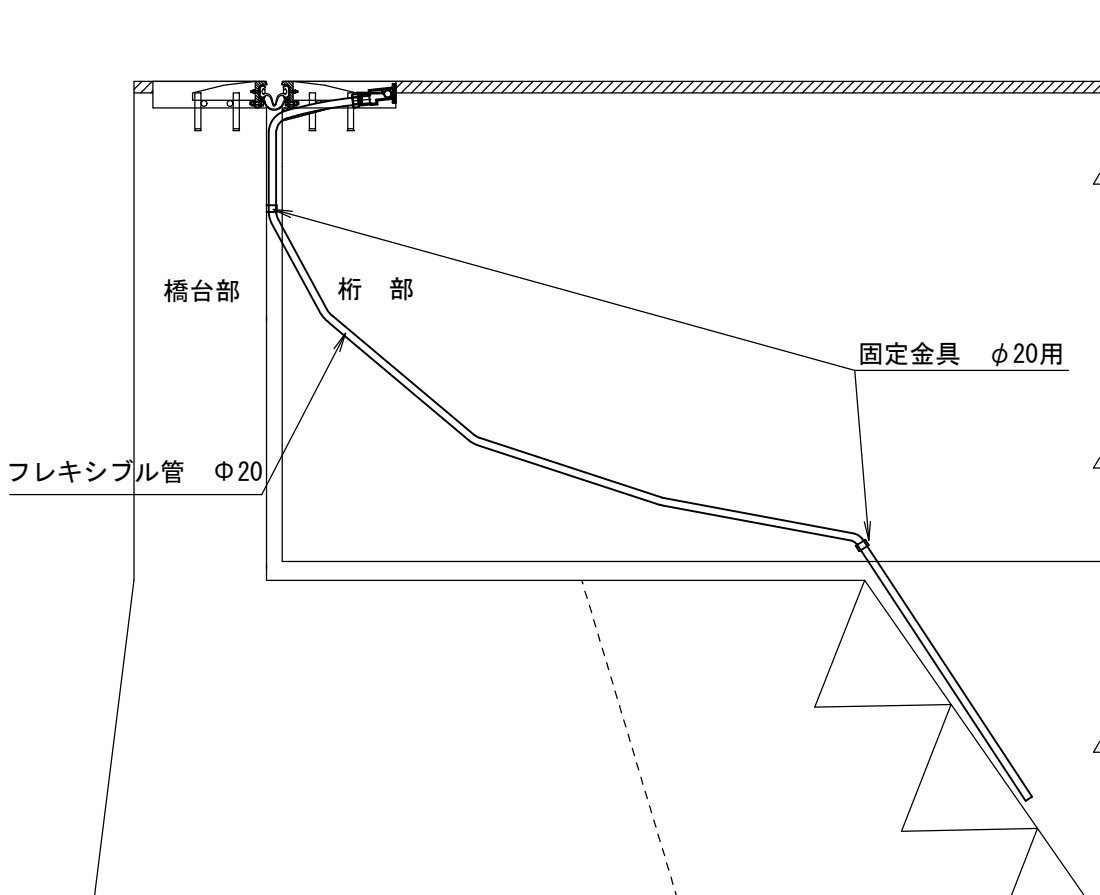


フレキシブル管

埋設型排水柵

S=1/20

ジョイント・レン相当(端部)参考設置図

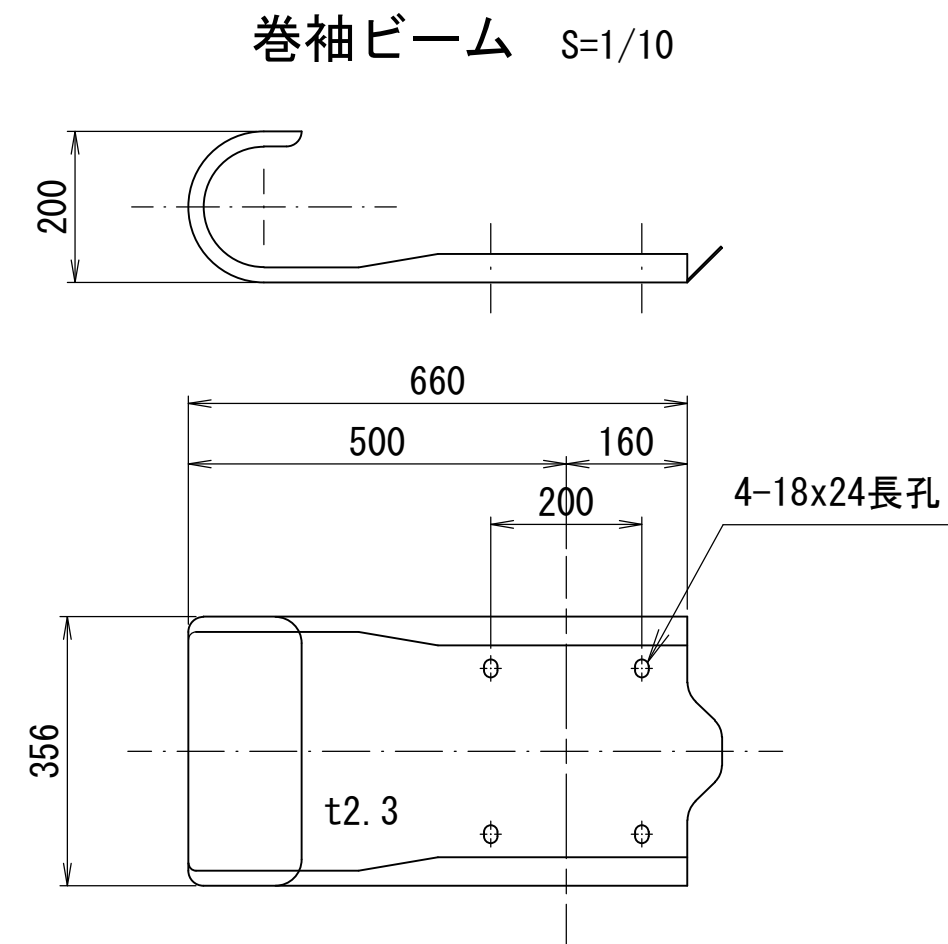
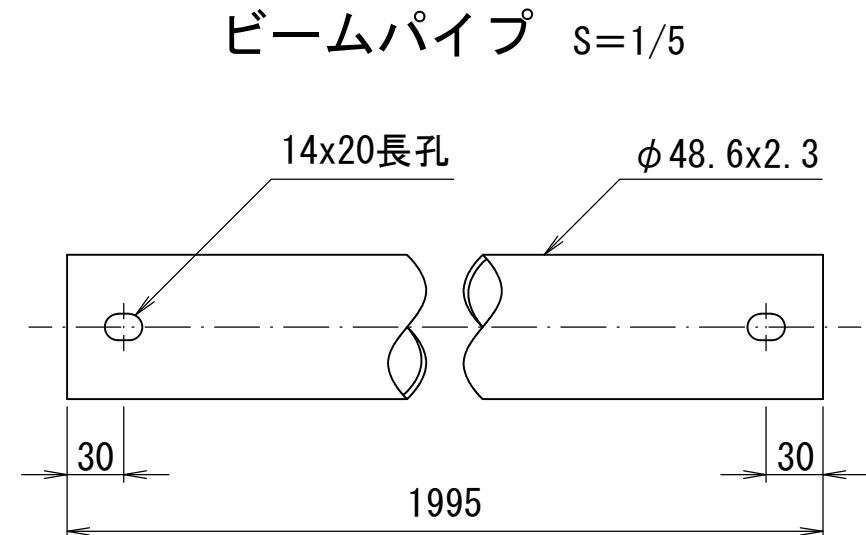
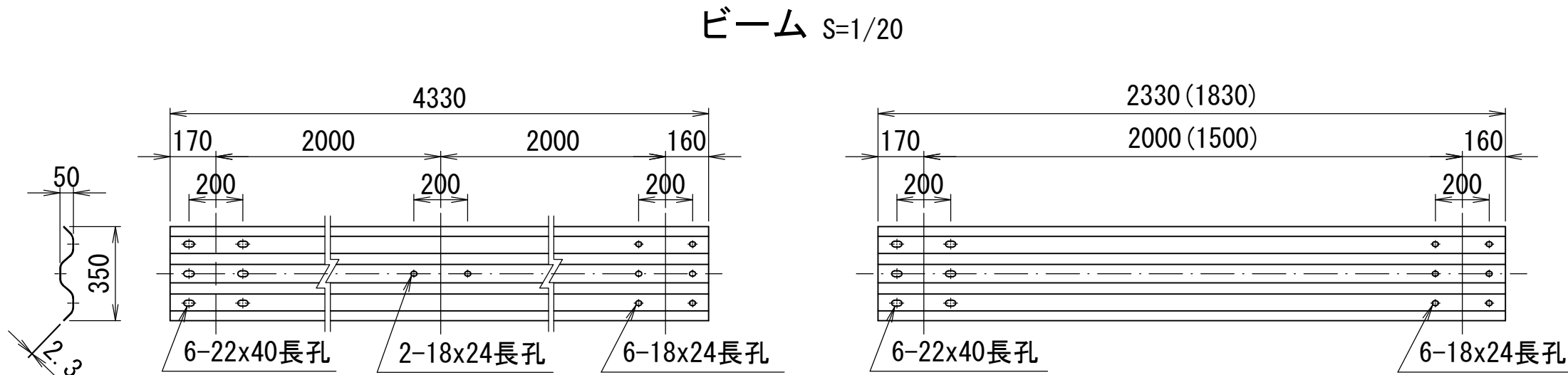
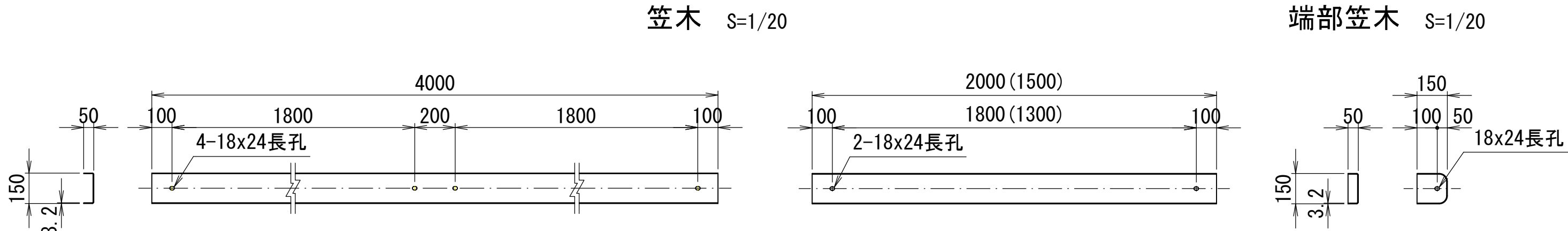


年 度	令 和 7 年 度
工 事 名	令和6年度 上山崎橋橋梁補修工事
路 線 名	桜ヶ丘12号線
施工箇所	弘前市大字 小沢 地内
図面名称	地覆補修工及び防護柵補修工(2)
縮 尺	図 示
図面番号	1 5 葉 9

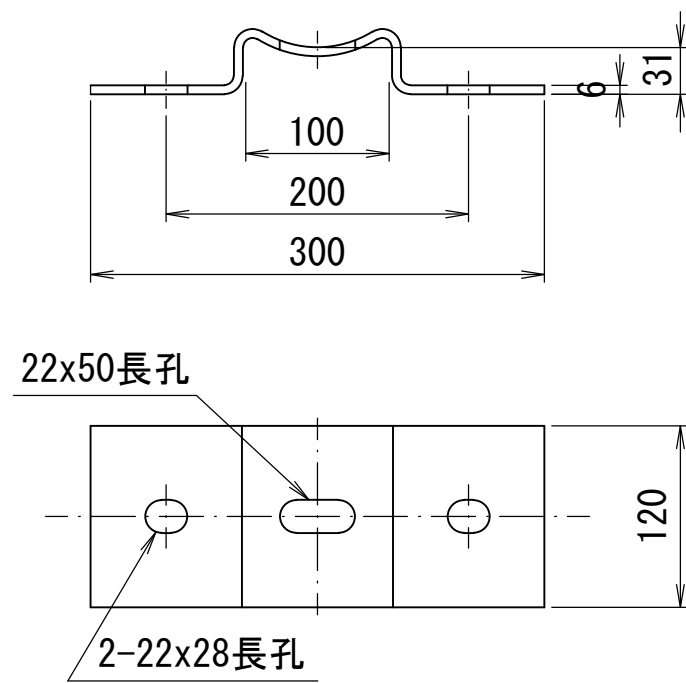
弘 前 市 建 設 部 土 木 課

地覆補修工及び防護柵補修工(2)

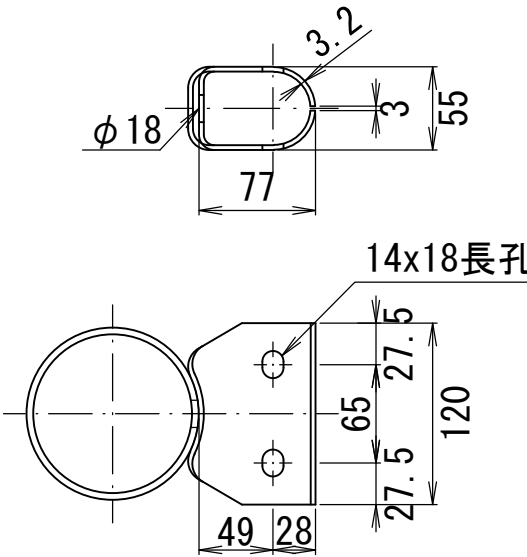
Gr-C2-2B(耐雪型)…笠木、ビームパイプ付



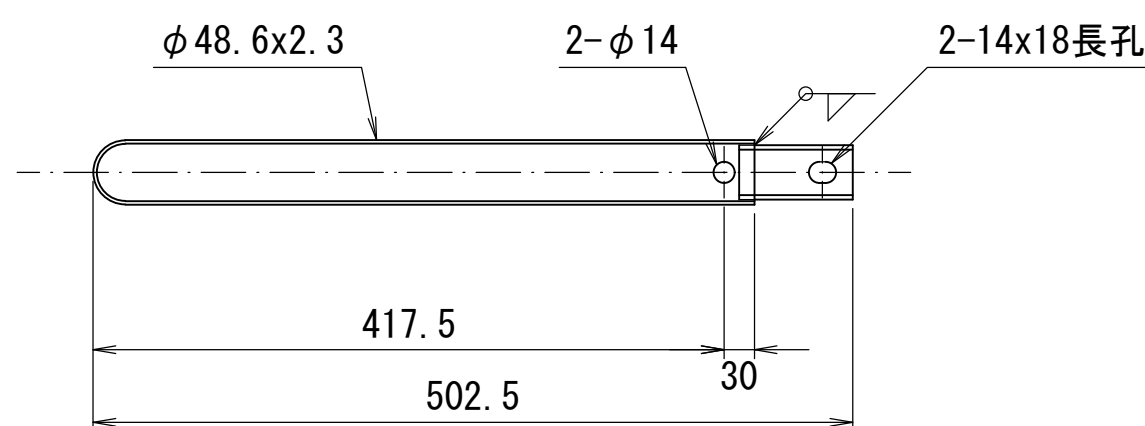
GR ブラケット (耐雪型) S=1/5



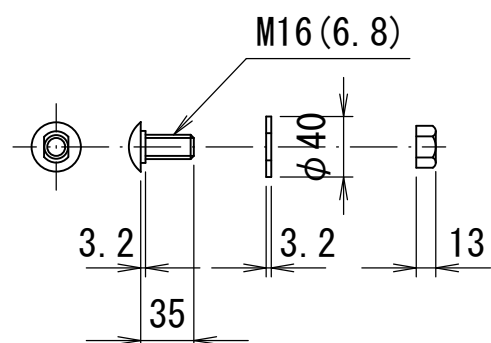
PAブラケット S=1/5



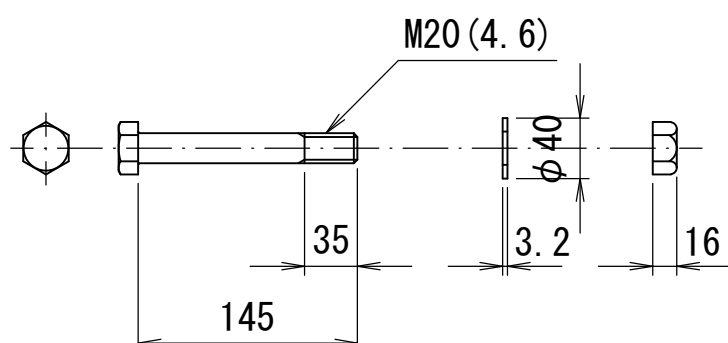
袖ビームパイプ S=1/5



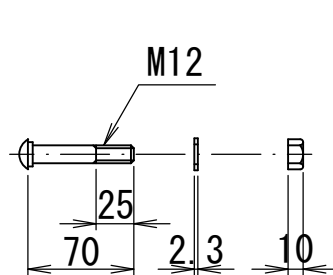
笠木・ビーム取付ボルト S=1/5



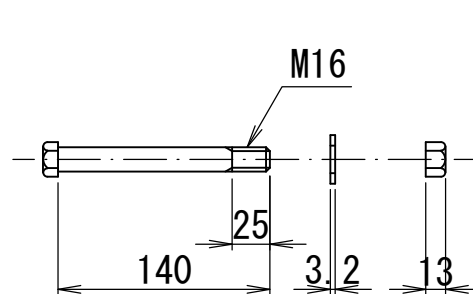
GRブラケット取付用ボルト S=1/5



ビームパイプ取付用ボルト S=1/5



PAブラケット取付用ボルト S=1/5

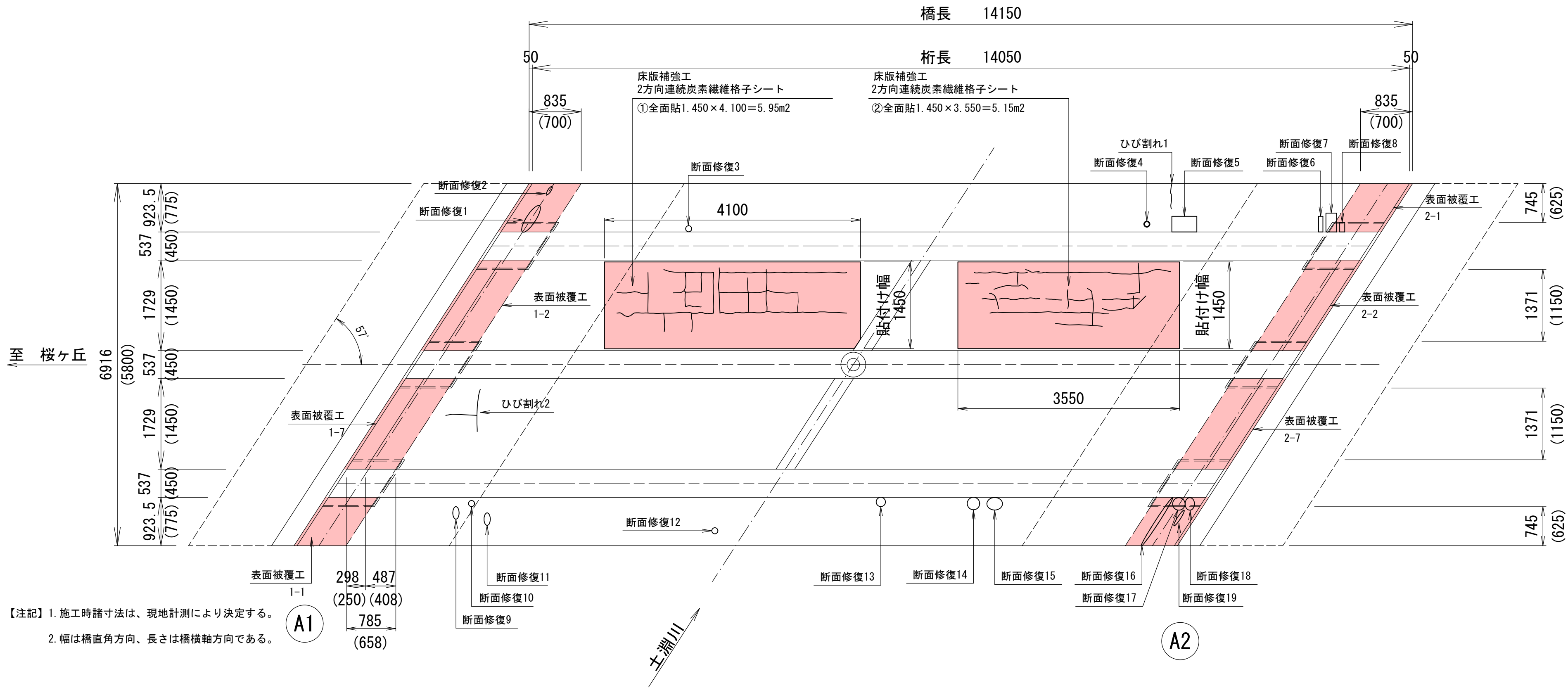


年 度	令 和 7 年 度
工 事 名	令和6年度 上山崎橋橋梁補修工事
路 線 名	桜ヶ丘12号線
施工箇所	弘前市大字 小沢 地内
図面名称	表面被覆工及び床版補強工(1)
縮 尺	図 示
図面番号	15 葉 10

弘前市建設部土木課

表面被覆工及び床版補強工(1)

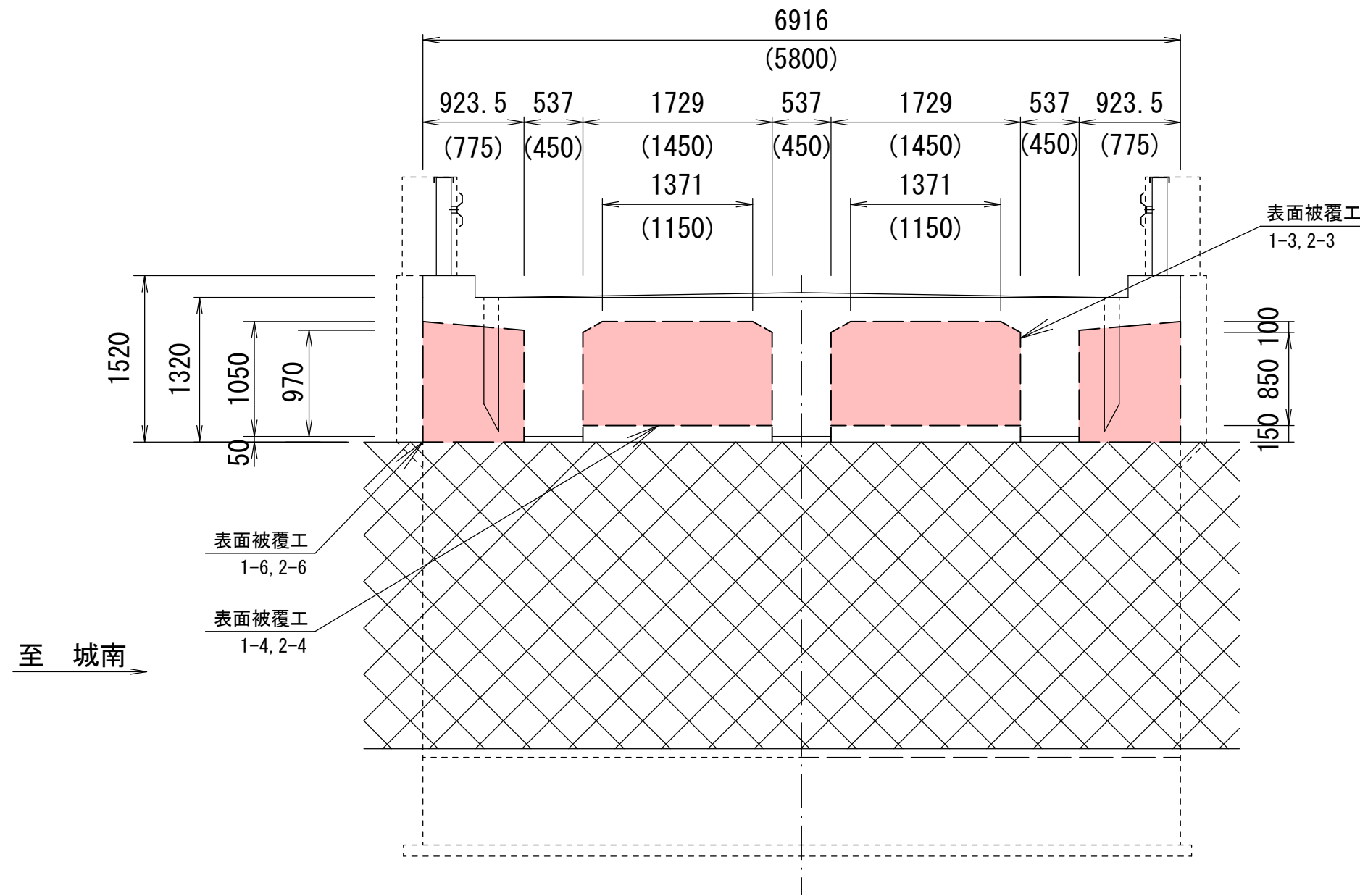
床版下面図 S=1:50



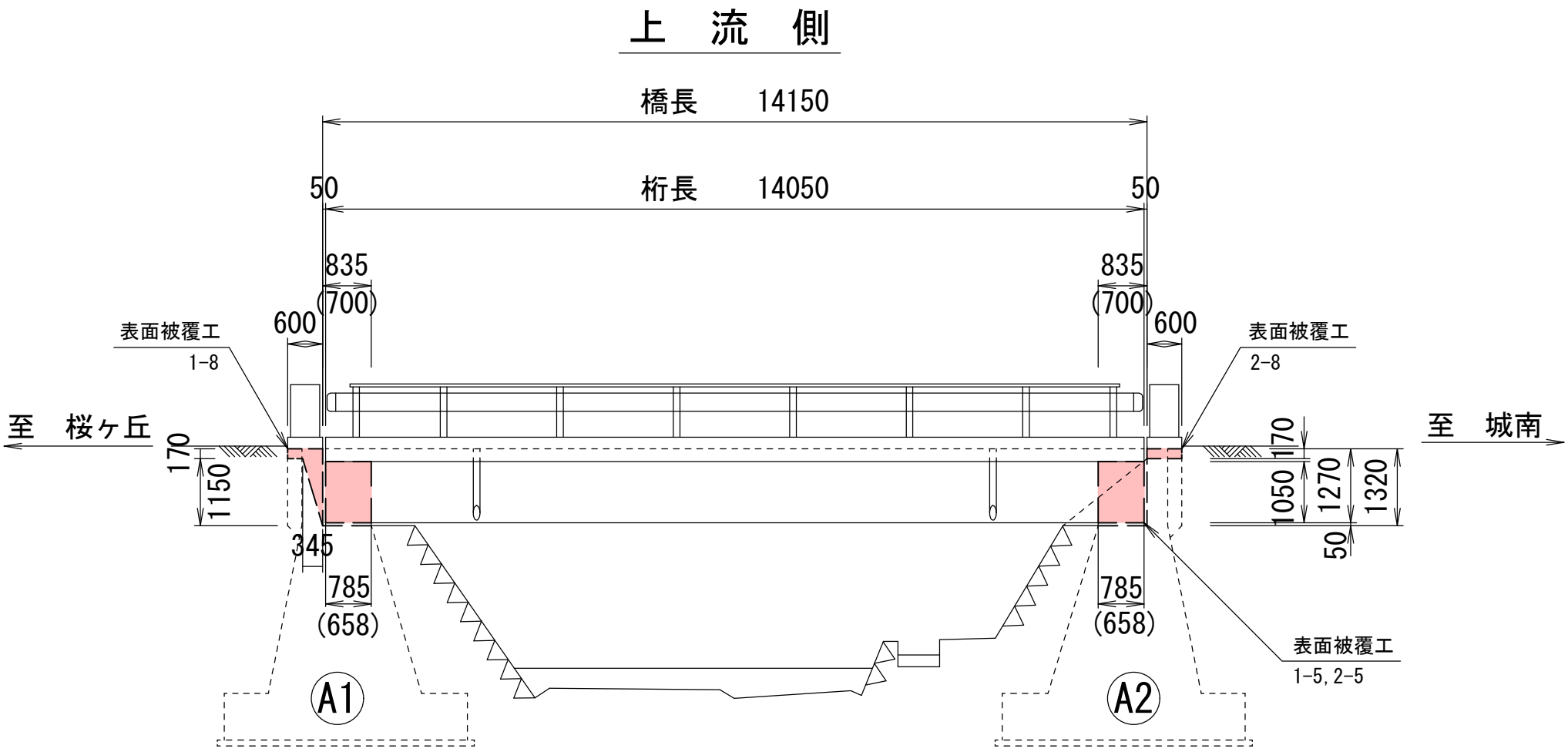
【注記】1. 施工時諸寸法は、現地計測により決定する。

2. 幅は橋直角方向、長さは橋横軸方向である。

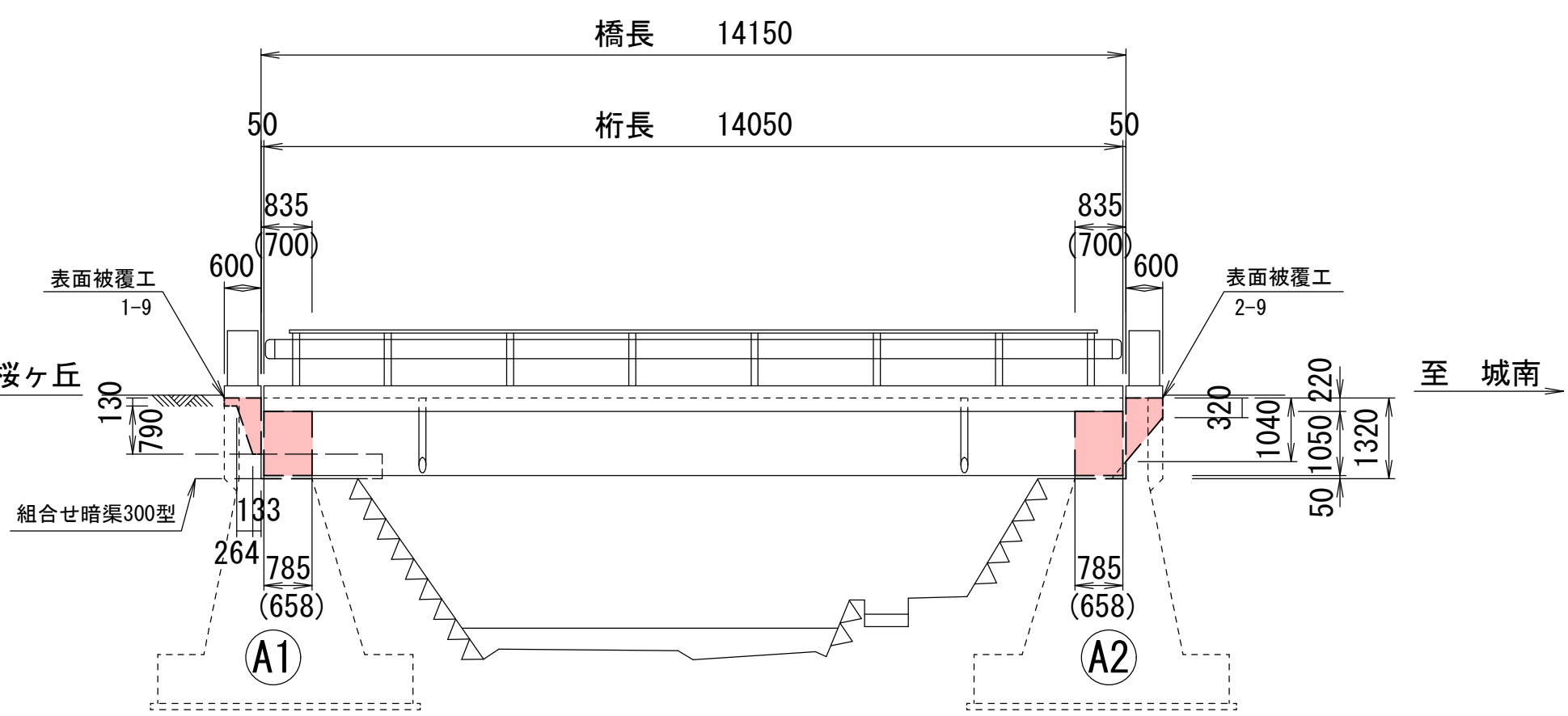
断面図 S=1:50



側面図 S=1:100



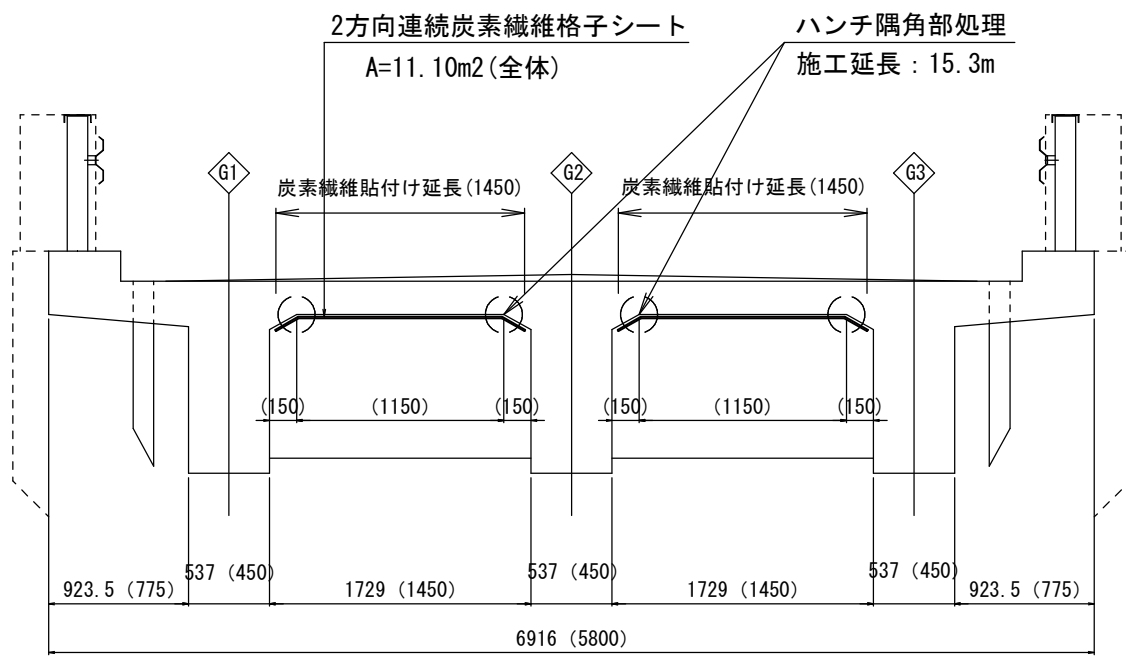
下流側



床版補強工標準断面図

(2方向連続炭素繊維シート)

S=1:50



注記： 図上の上段寸法は、橋軸方向及び河川流向の数値である。

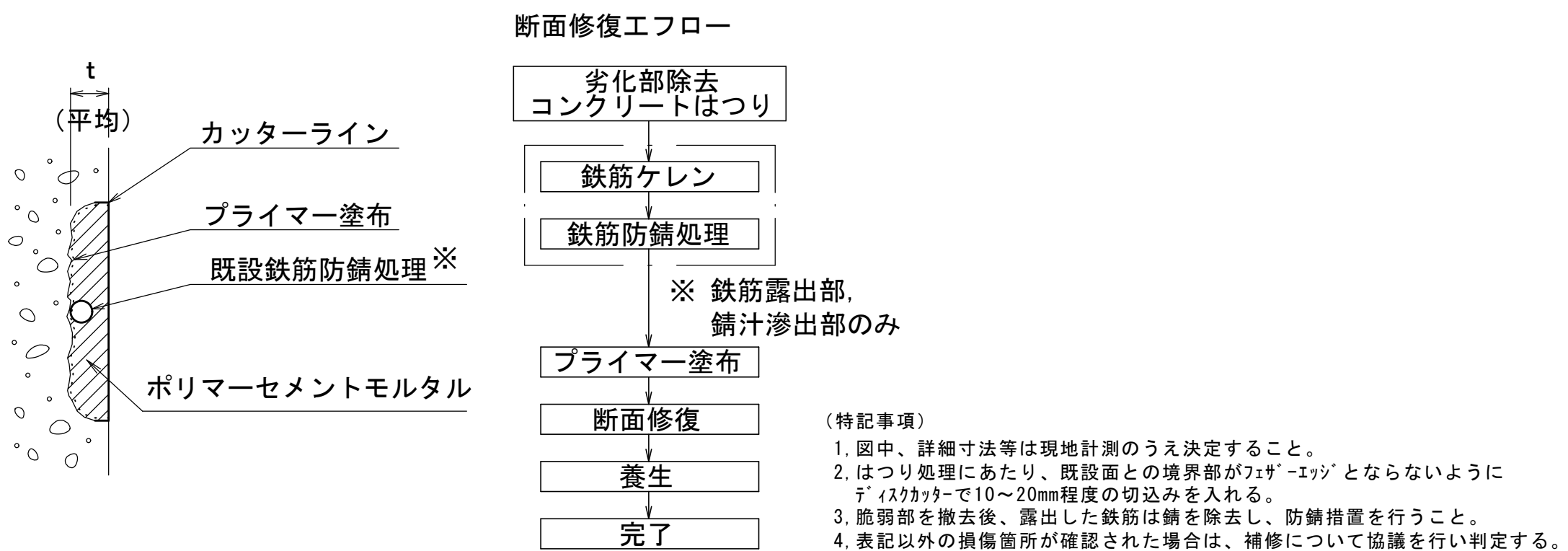
また、下段の()内寸法は、橋軸に対し直角方向及び河川流向に対し直角方向の数値である。

年 度	令和 7 年 度
工 事 名	令和 6 年度 上山崎橋橋梁補修工事
路 線 名	桜ヶ丘 1 2 号線
施工箇所	弘前市大字 小沢 地内
図面名称	表面被覆工及び床版補強工(2)
縮 尺	NO. SCALE
図面番号	1 5 葉 1 1

弘前市建設部土木課

表面被覆工及び床版補強工(2)

断面修復工詳細図

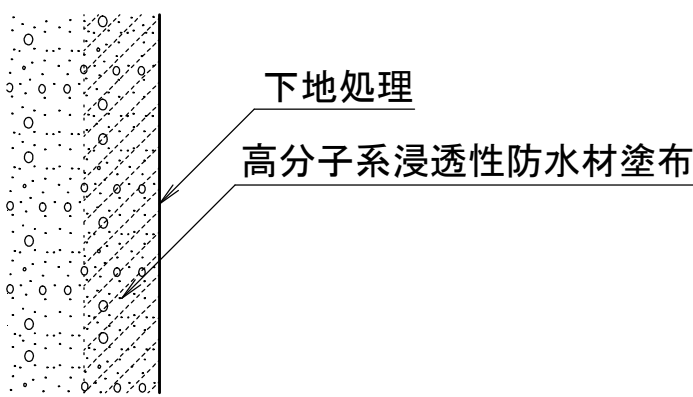
断面修復工数量表（左官工法）

修復 番号	修 復 寸 法 (mm)			修復数量		備 考
	幅(W)	長さ(L)	深さ(t)	面積(m2)	体積(m3)	
1	600	250	50	0.15	0.008	
2	250	150	50	0.04	0.002	
3	200	200	50	0.04	0.002	
4	200	200	50	0.04	0.002	
5	350	500	50	0.18	0.009	
6	250	180	50	0.05	0.002	
7	400	270	50	0.11	0.005	
8	350	170	50	0.06	0.003	
9	300	200	50	0.06	0.003	
10	200	200	50	0.04	0.002	
小計 0.77m2 0.038m3						

修復 番号	修 復 寸 法 (mm)			修復数量		備 考
	幅(W)	長さ(L)	深さ(t)	面積(m ²)	体積(m ³)	
11	300	200	50	0.06	0.003	
12	200	200	50	0.04	0.002	
13	250	250	50	0.06	0.003	
14	300	300	50	0.09	0.005	
15	300	350	50	0.11	0.005	
16	1000	150	50	0.15	0.008	
17	300	300	50	0.09	0.005	
18	300	250	50	0.08	0.004	
19	400	150	50	0.06	0.003	
				小計	0.74m ²	0.038m ³
				合計	1.51m ²	0.076m ³

(平均厚さ 50mm)

表面被覆工詳細図



(特記事項)

1. 断面・詳細寸法等は現地計測の上決定すること。
2. 図面欠損部や脆弱部等は断面修復を行う。
3. 残存している不要な型枠は撤去する。
4. 塗布面の乾燥状態を確認した上で、ローラーにて含浸させる。
5. 施工時は周囲に飛散しないように、作業完了後(24時間)は降雨にさらされないように、養生を行う。

表面被覆工数量表（下地処理有）

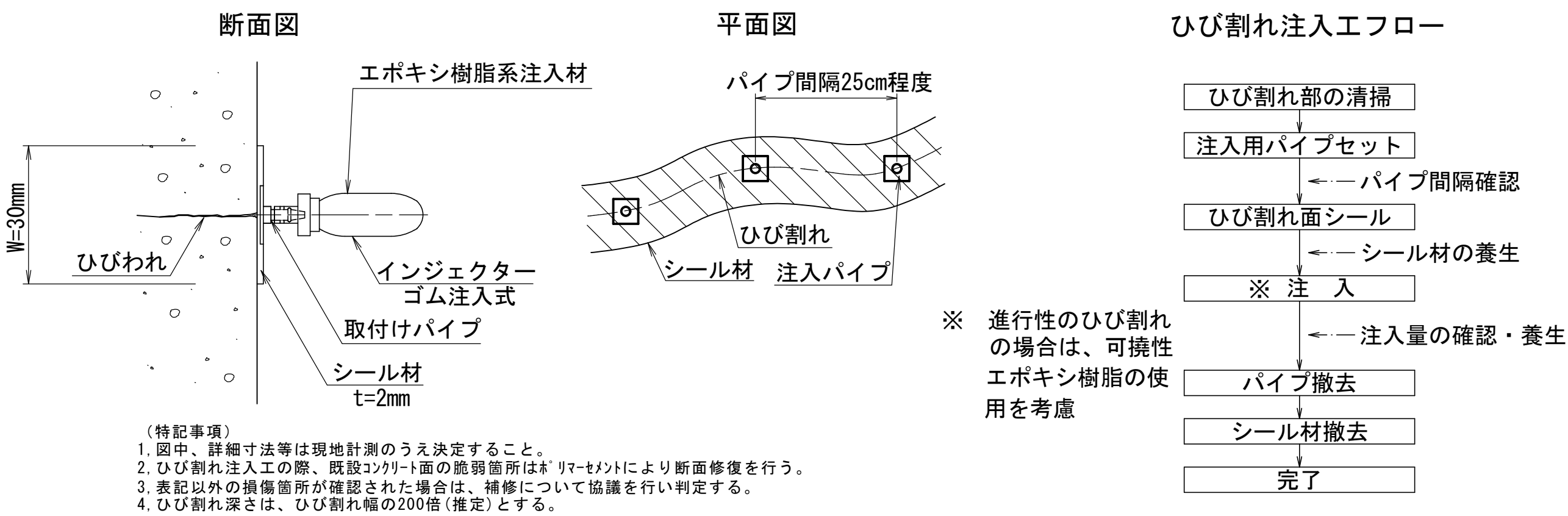
位置・番号	算 定 式	面積(m ²)	備 考
A 1 側			
1-1 (張出床版)	$A=0.9235 \times 0.700 \times 2$	1.29	
1-2 (床版下面)	$A=1.729 \times 0.408 \times 2$	1.41	
1-3 (横桁下面)	$A=0.850 \times 1.729 \times 2$ $+ (1.729 + 1.371) \div 2 \times 0.100 \times 2$	3.25	
1-4 (横桁下面)	$A=1.729 \times 0.250 \times 2$	0.86	
1-5 (主桁側面)	$A=0.785 \times 0.970 \times 2$ $+ 0.487 \times 0.970 \times 4 + 0.298 \times 0.150 \times 4$	3.59	
1-6 (胸壁前面)	$A= (1.020 + 1.100) \div 2 \times 0.9235 \times 2$	1.96	
1-7 (橋座面)	$A=0.835 \times 0.775 \times 2 + 1.729 \times 0.700 \times 2$	3.71	
1-8 (胸壁側面)	$A=0.600 \times 0.170 + 0.345 \times 1.150 \div 2$	0.30	
1-9 (胸壁側面)	$A=0.600 \times 0.130 + (0.133 + 0.397) \div 2 \times 0.790$	0.29	
小計		16.66m ²	

位置・番号	算 定 式	面積(m ²)	備 考
A-2側			
2-1(張出床版)	$A=0.9235 \times 0.700 \times 2$	1.29	
2-2(床版下面)	$A=1.729 \times 0.408 \times 2$	1.41	
2-3(横桁前面)	$A=0.850 \times 1.729 \times 2$		
	$+ (1.729+1.371) \div 2 \times 0.100 \times 2$	3.25	
2-4(横桁下面)	$A=1.729 \times 0.250 \times 2$	0.86	
2-5(主桁側面)	$A=0.785 \times 0.970 \times 2$		
	$+ 0.487 \times 0.970 \times 4 + 0.298 \times 0.150 \times 4$	3.59	
2-6(胸壁前面)	$A= (1.020+1.100) \div 2 \times 0.9235 \times 2$	1.96	
2-7(樑座面)	$A=0.835 \times 0.775 \times 2 + 1.729 \times 0.700 \times 2$	3.71	
2-8(胸壁側面)	$A=0.600 \times 0.170$	0.10	
2-9(胸壁側面)	$A= (0.320+1.040) \div 2 \times 0.600$	0.41	
	小計	16.58	m ²
	合計	33.24	m ²

【注記】1. 施工時諸寸法は、現地計測により決定する。

ひび割れ注入工詳細図

(0.2mm≦ひび割れ幅<1.0mm)
低圧注入工法

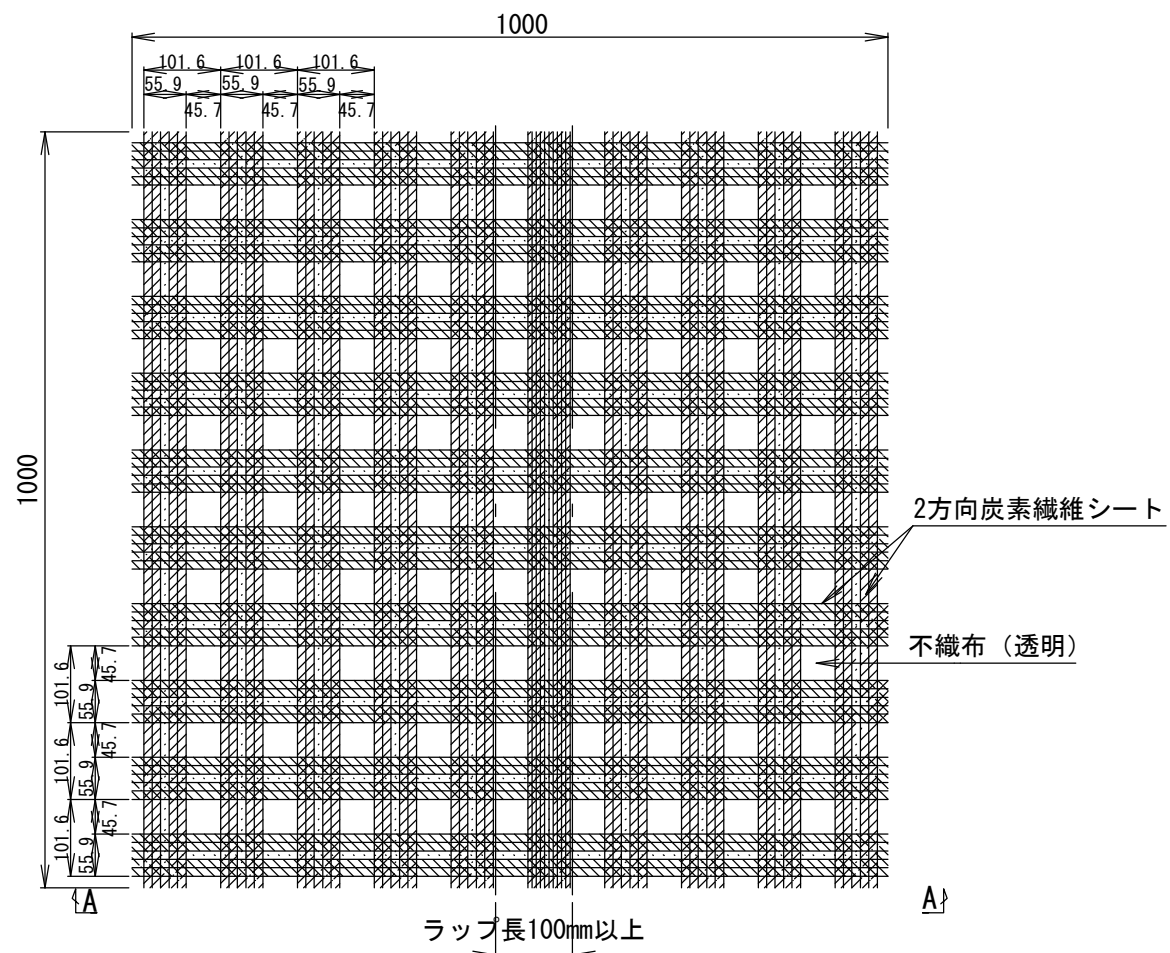


ひび割れ注入工数量表

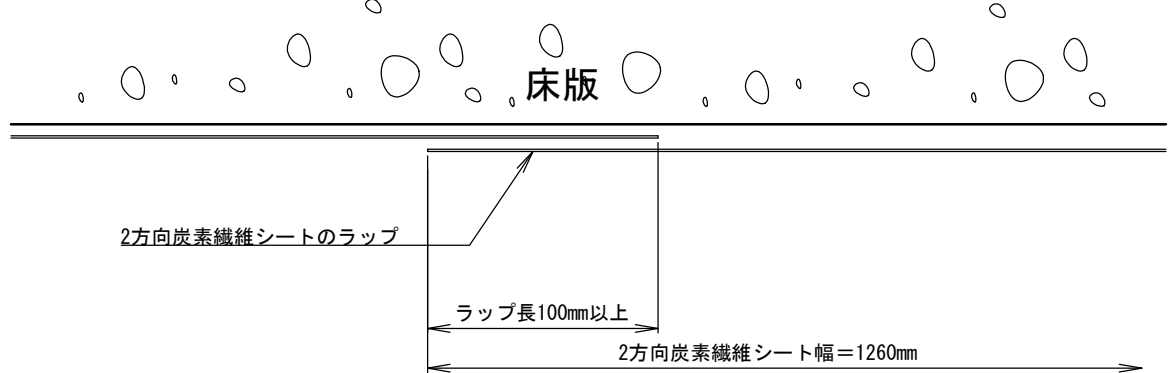
番号	延長(m)	ひび割れ幅(mm)	ひび割れ深(mm)(推定値)
1	0.40	0.30	60
2	1.20	0.30	60
計	1.60	0.60mm	

2方向連続炭素繊維格子シート平面図

(全面貼り)



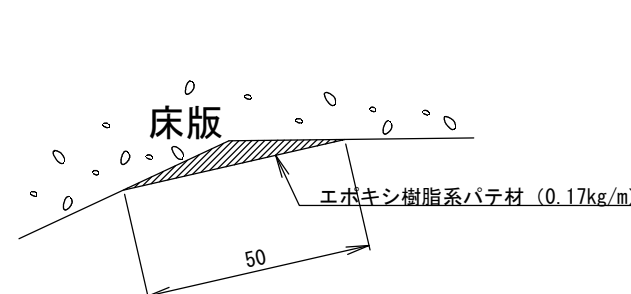
A – A



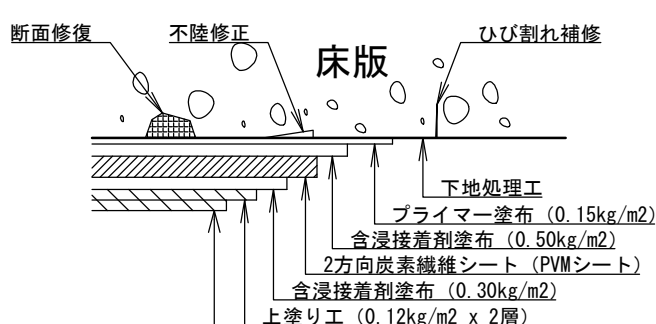
(特記事項)

1. 図中詳細寸法等は、現地検測のうえ決定する。
2. 補強繊維シート同士のラップは100mm以上を確保する。
3. 床版補強工の前に橋面防水工を施工する。
4. 施工前に床版の調査を行い、0.2mm以上のひび割れ、断面欠損、コンクリートの不良部、段差等が確認された場合には、ひび割れ補修工、断面修復工等を行う。

ハンチ隅角部処理詳細図



2方向炭素繊維シート貼付詳細図



年 度	令 和 7 年 度
工 事 名	令和6年度 上山崎橋橋梁補修工事
路 線 名	桜ヶ丘12号線
施工箇所	弘前市大字 小沢 地内
図面名称	主桁補修工(1)
縮 尺	図 示
図面番号	1 5 葉 1 2

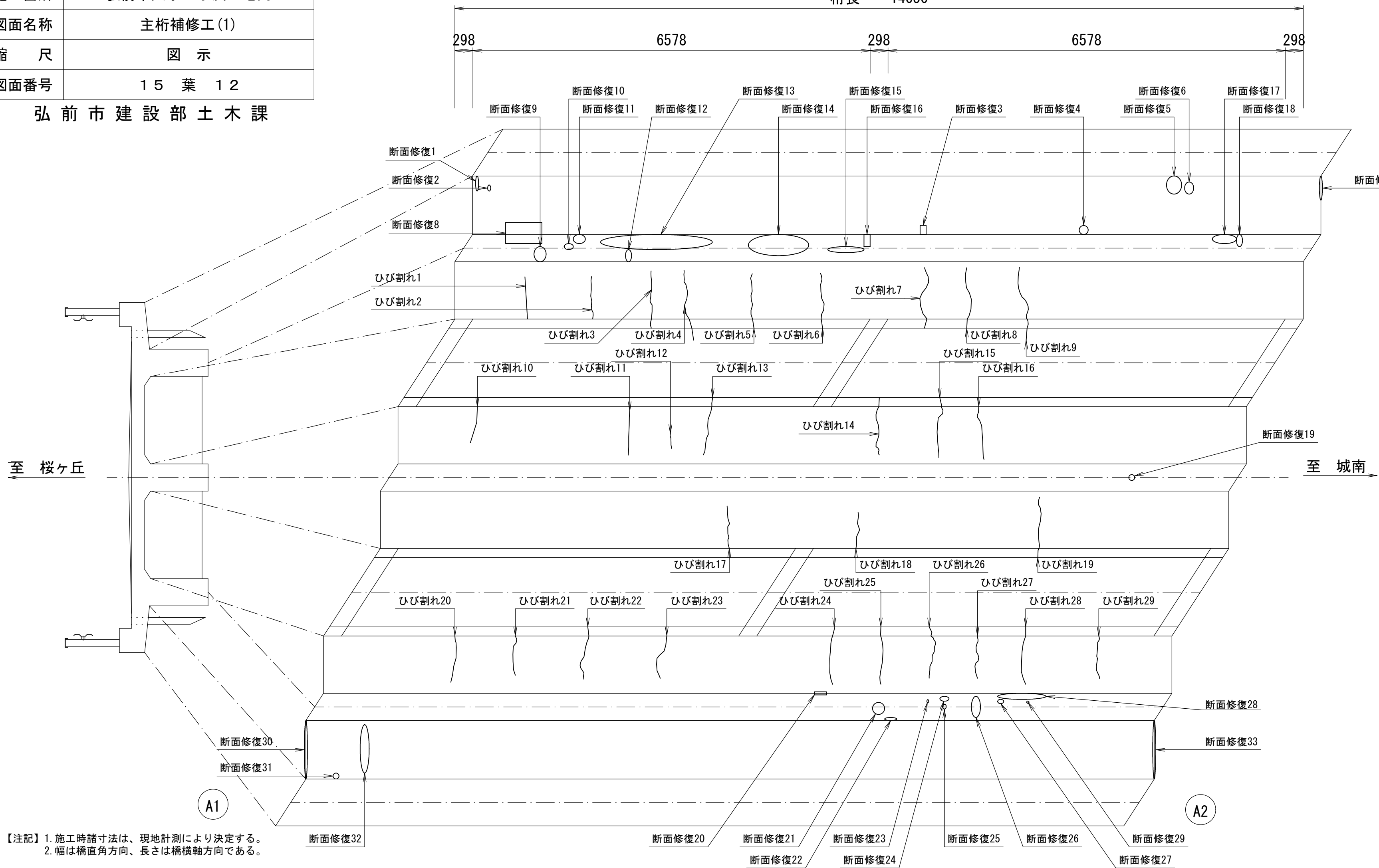
弘前市建設部土木課

主桁補修工(1) (主桁)

平 面 図

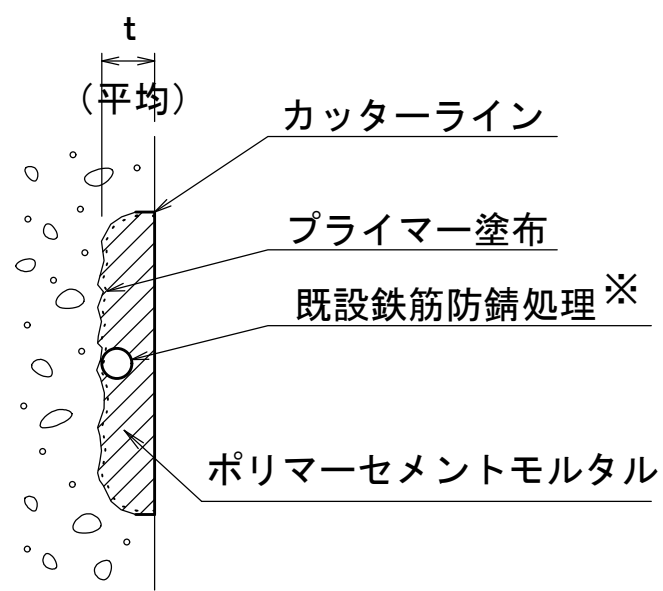
S=1:50

桁長 14050

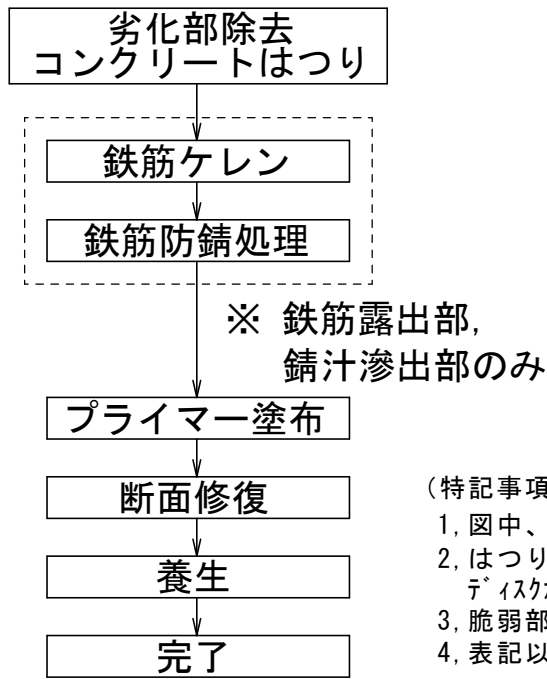


【注記】1. 施工時諸寸法は、現地計測により決定する。
2. 幅は橋直角方向、長さは橋機軸方向である。

断面修復工詳細図



断面修復エフロー



(特記事項)
1. 図中、詳細寸法等は現地計測のうえ決定すること。
2. はつり処理にあたり、既設面との境界部が「ガ-エッジ」とならないように
ディスクカッターで10～20mm程度の切込みを入れる。
3. 脆弱部を撤去後、露出した鉄筋は錆を除去し、防錆措置を行うこと。
4. 表記以外の損傷箇所が確認された場合は、補修について協議を行い判定する。

断面修復工数量表 (左官工法)

修復 番号	修 復 寸 法 (mm)			修復数量		備 考
	幅(W)	長さ(L)	深さ(t)	面積(m2)	体積(m3)	
1	350	150	50	0.05	0.003	
2	200	150	50	0.03	0.002	
3	250	200	50	0.05	0.003	
4	250	250	50	0.06	0.003	
5	400	350	50	0.14	0.007	
6	300	250	50	0.08	0.004	
7	500	150	50	0.08	0.004	
8	300	700	50	0.21	0.011	
9	300	400	50	0.12	0.006	
10	200	250	50	0.05	0.003	
11	200	300	50	0.06	0.003	
12	250	150	50	0.04	0.002	
小計 0.97m2 0.051m3						

修復 番号	修 復 寸 法 (mm)			修復数量		備 考
	幅(W)	長さ(L)	深さ(t)	面積(m2)	体積(m3)	
13	300	1950	50	0.59	0.029	
14	400	1100	50	0.44	0.022	
15	200	700	50	0.14	0.007	
16	250	200	50	0.05	0.003	
17	200	500	50	0.10	0.005	
18	250	200	50	0.05	0.003	
19	140	150	50	0.02	0.001	
20	150	300	50	0.05	0.002	
21	300	300	50	0.09	0.005	
22	100	300	50	0.03	0.002	
23	150	130	50	0.02	0.001	
24	130	250	50	0.03	0.002	
小計 1.61m2 0.082m3						

修復 番号	修 復 寸 法 (mm)			修復数量		備 考
	幅(W)	長さ(L)	深さ(t)	面積(m2)	体積(m3)	
25	180	160	50	0.03	0.001	
26	350	250	50	0.09	0.004	
27	170	200	50	0.03	0.002	
28	150	900	50	0.14	0.007	
29	60	110	50	0.01	0.001	
30	1070	150	50	0.16	0.008	
31	200	200	50	0.04	0.002	
32	900	250	50	0.23	0.011	
33	1070	150	50	0.16	0.008	
小計 0.89m2 0.044m3				合計 3.47m2 0.177m3		
(平均厚さ 50mm)						

ひび割れ注入工数量表

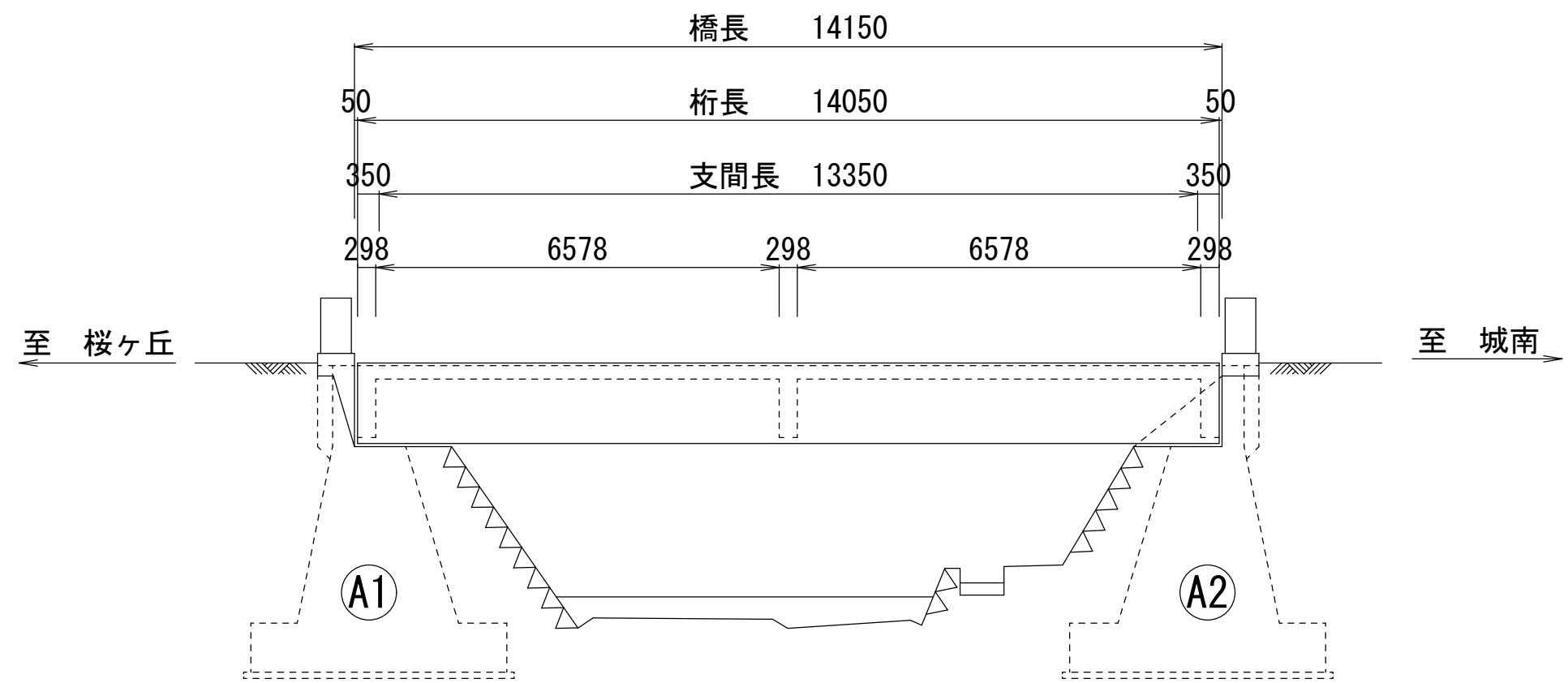
番号	延長(m)	ひび割れ幅(mm)	ひび割れ深(mm) (推定値)
1	0.70	0.40	80
2	0.70	0.40	80
3	0.95	0.40	80
4	1.15	0.50	100
5	0.90	0.50	100
6	0.90	0.40	80
7	1.00	0.45	90
8	1.00	0.45	90
9	1.20	0.25	50
10	0.60	0.30	60
11	0.80	0.40	80
12	0.25	0.40	80
小計 10.15m 4.85mm			

番号	延長(m)	ひび割れ幅(mm)	ひび割れ深(mm) (推定値)
13	0.95	0.40	80
14	0.95	0.45	90
15	1.00	0.40	80
16	0.90	0.40	80
17	0.70	0.35	70
18	0.60	0.30	60
19	1.00	0.30	60
20	0.75	0.50	100
21	0.65	0.55	110
22	0.85	0.45	90
23	0.70	0.50	100
24	0.90	0.40	80
小計 9.95m 5.00mm			

番号	延長(m)	ひび割れ幅(mm)	ひび割れ深(mm) (推定値)
25	0.95	0.30	60
26	0.85	0.35	70
27	0.70	0.35	70
28	0.95	0.40	80
29	0.70	0.40	80
小計 4.15m 1.80mm			
合計 24.25m 11.65mm			

側 面 図

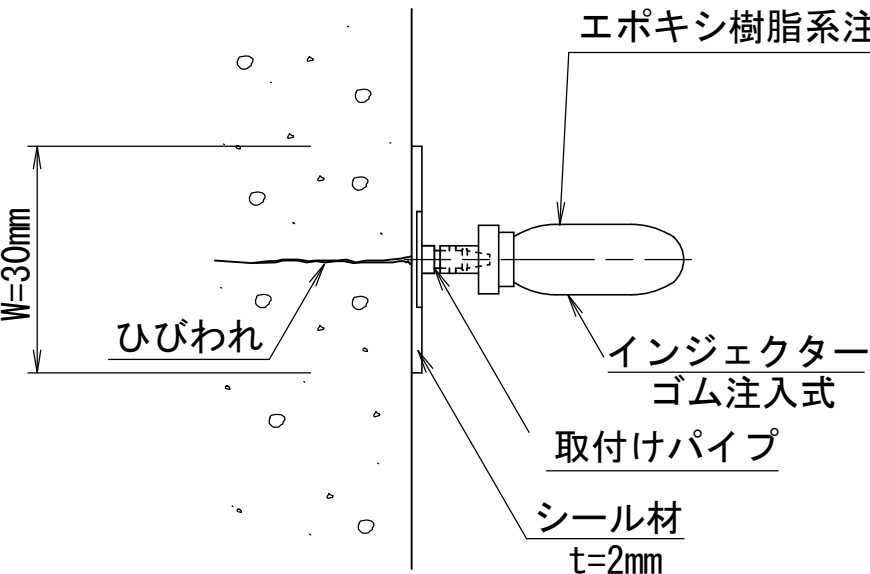
S=1:100



ひび割れ注入工詳細図

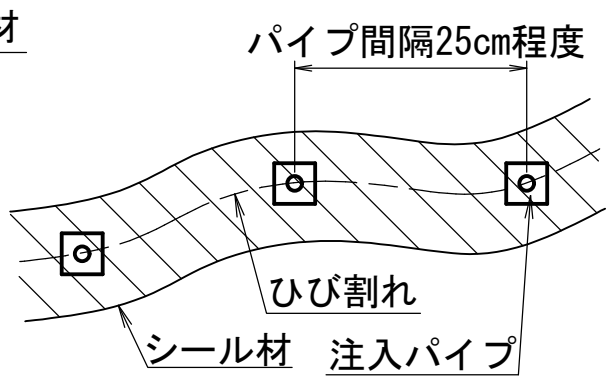
(0.2mm≦ひび割れ幅<1.0mm)
低圧注入工法

断面図

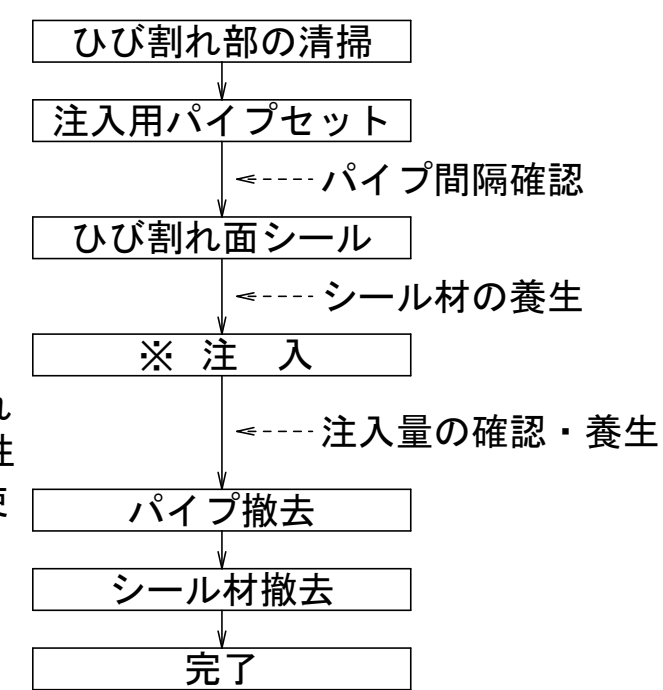


(特記事項)
1. 図中、詳細寸法等は現地計測のうえ決定すること。
2. ひび割れ注入工の際、既設コンクリート面の脆弱箇所は「ポリマーセメント」により断面修復を行う。
3. 表記以外の損傷箇所が確認された場合は、補修について協議を行い判定する。
4. ひび割れ深さは、ひび割れ幅の200倍(推定)とする。

平面図



ひび割れ注入エフロー



※ 進行性のひび割れの場合は、可撓性エポキシ樹脂の使用を考慮

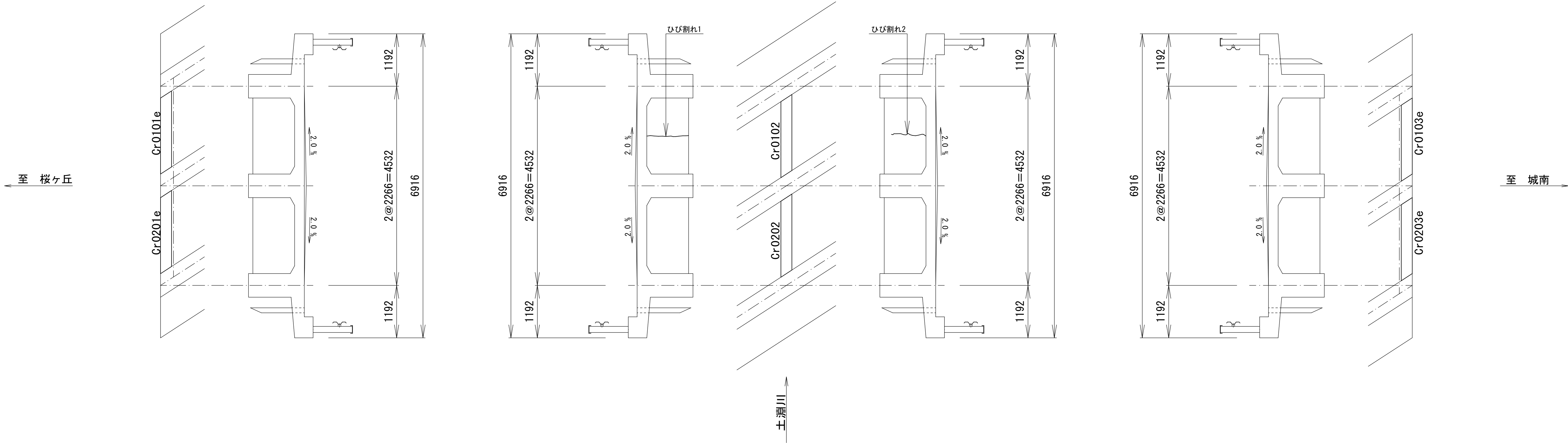
年 度	令 和 7 年 度
工 事 名	令和6年度 上山崎橋橋梁補修工事
路 線 名	桜ヶ丘12号線
施工箇所	弘前市大字 小沢 地内
図面名称	主桁補修工(2)
縮 尺	図 示
図面番号	15 葉 13

弘前市建設部土木課

主桁補修工(2) (横桁)

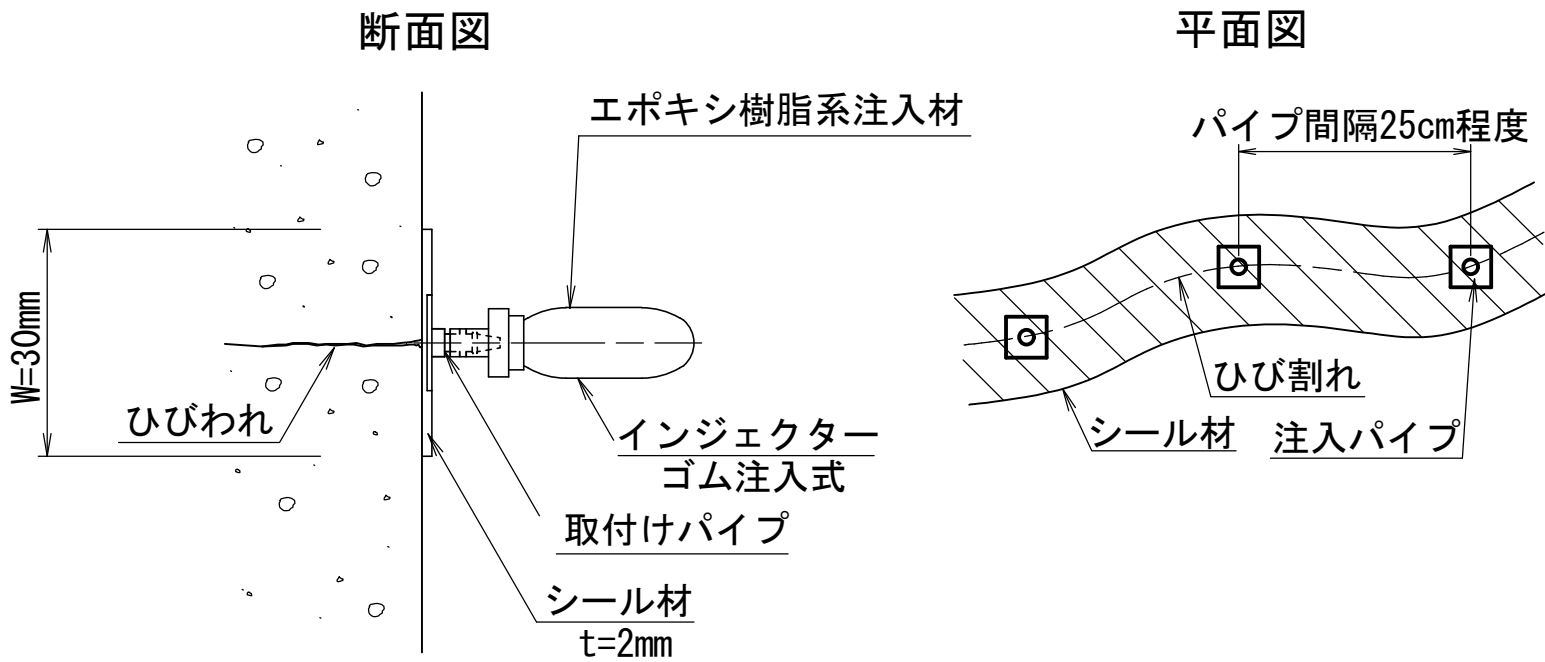
平 面 図

S=1:50



ひび割れ注入工詳細図

(0.2mm≦ひび割れ幅<1.0mm)
低圧注入工法

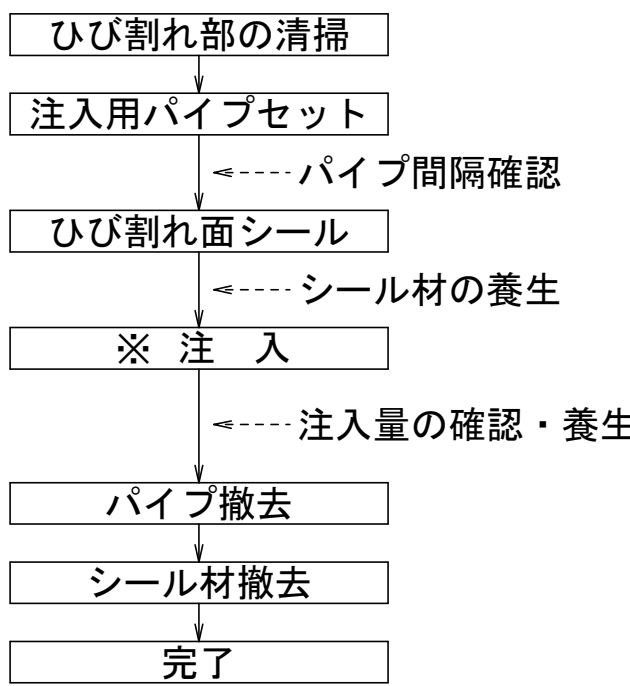


- (特記事項)
1. 図中、詳細寸法等は現地計測のうえ決定すること。
 2. ひび割れ注入工の際、既設コンクリート面の脆弱箇所は*リマートにより断面修復を行う。
 3. 表記以外の損傷箇所が確認された場合は、補修について協議を行い判定する。
 4. ひび割れ深さは、ひび割れ幅の200倍(推定)とする。

ひび割れ注入工数量表

番号	延長(m)	ひび割れ幅(mm)	ひび割れ深(mm)(推定値)
1	0.95	0.40	80
2	0.80	0.30	60
計	1.75	0.70mm	

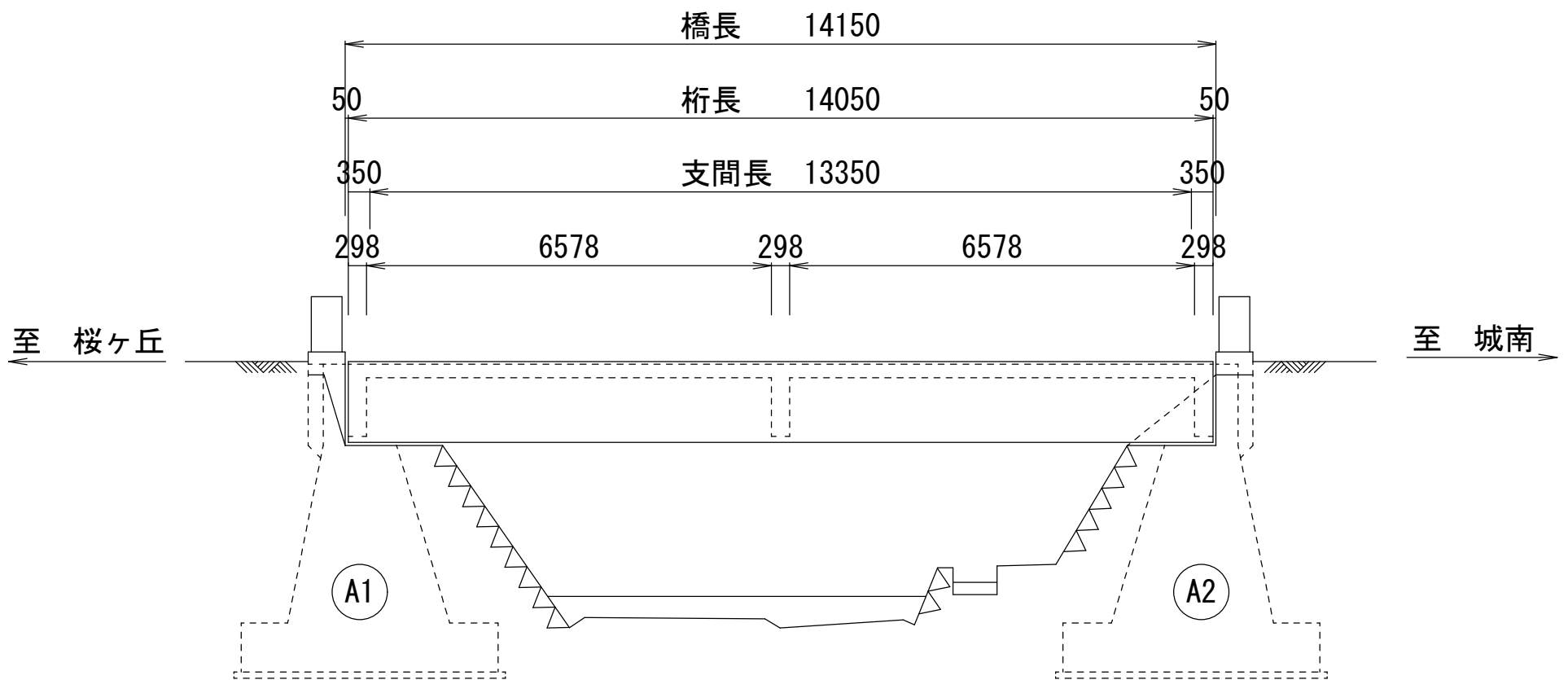
ひび割れ注入エフロー



※ 進行性のひび割れの場合は、可撓性エポキシ樹脂の使用を考慮

側 面 図

S=1:100

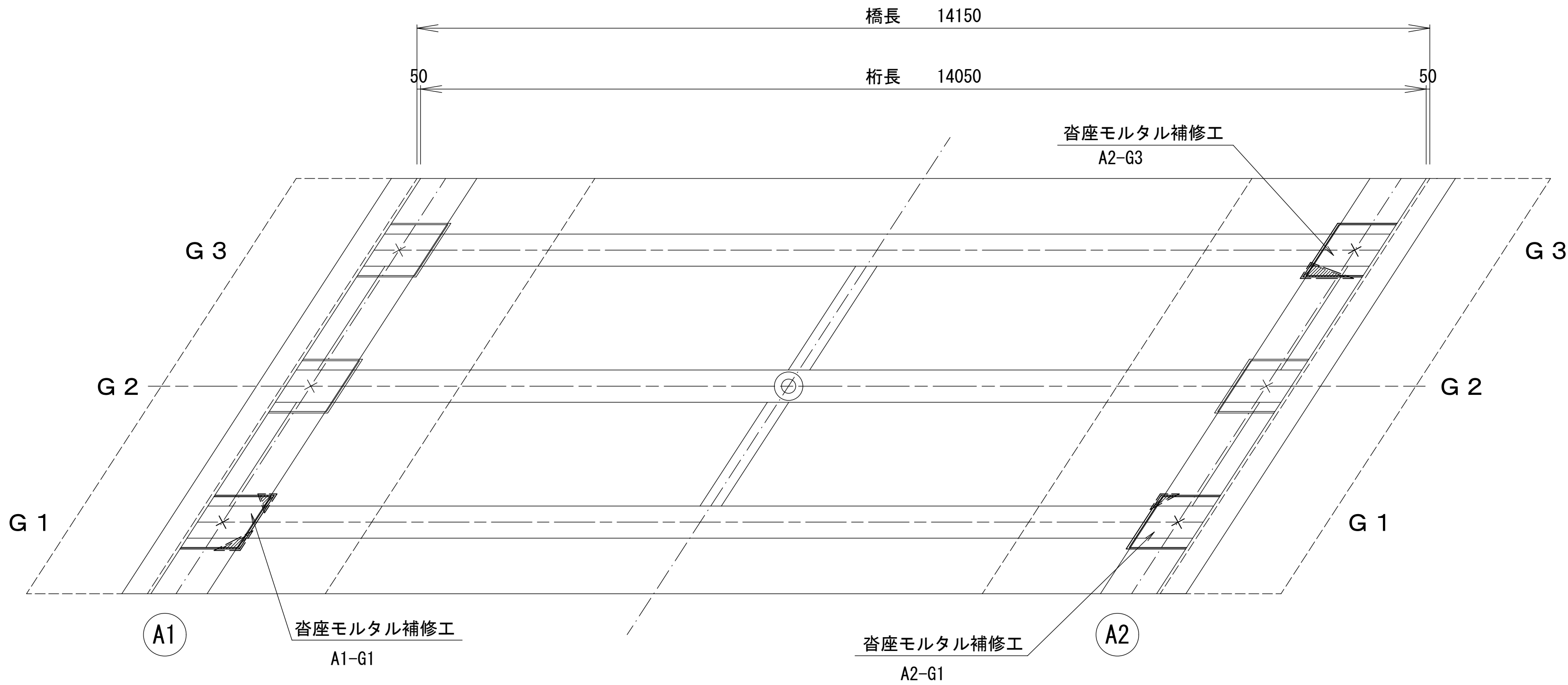


年 度	令 和 7 年 度
工 事 名	令和6年度 上山崎橋橋梁補修工事
路 線 名	桜ヶ丘12号線
施工箇所	弘前市大字 小沢 地内
図面名称	支承補修工
縮 尺	図 示
図面番号	15 葉 14

弘 前 市 建 設 部 土 木 課

支承補修工 (沓座モルタル)

平 面 図 S=1 : 50



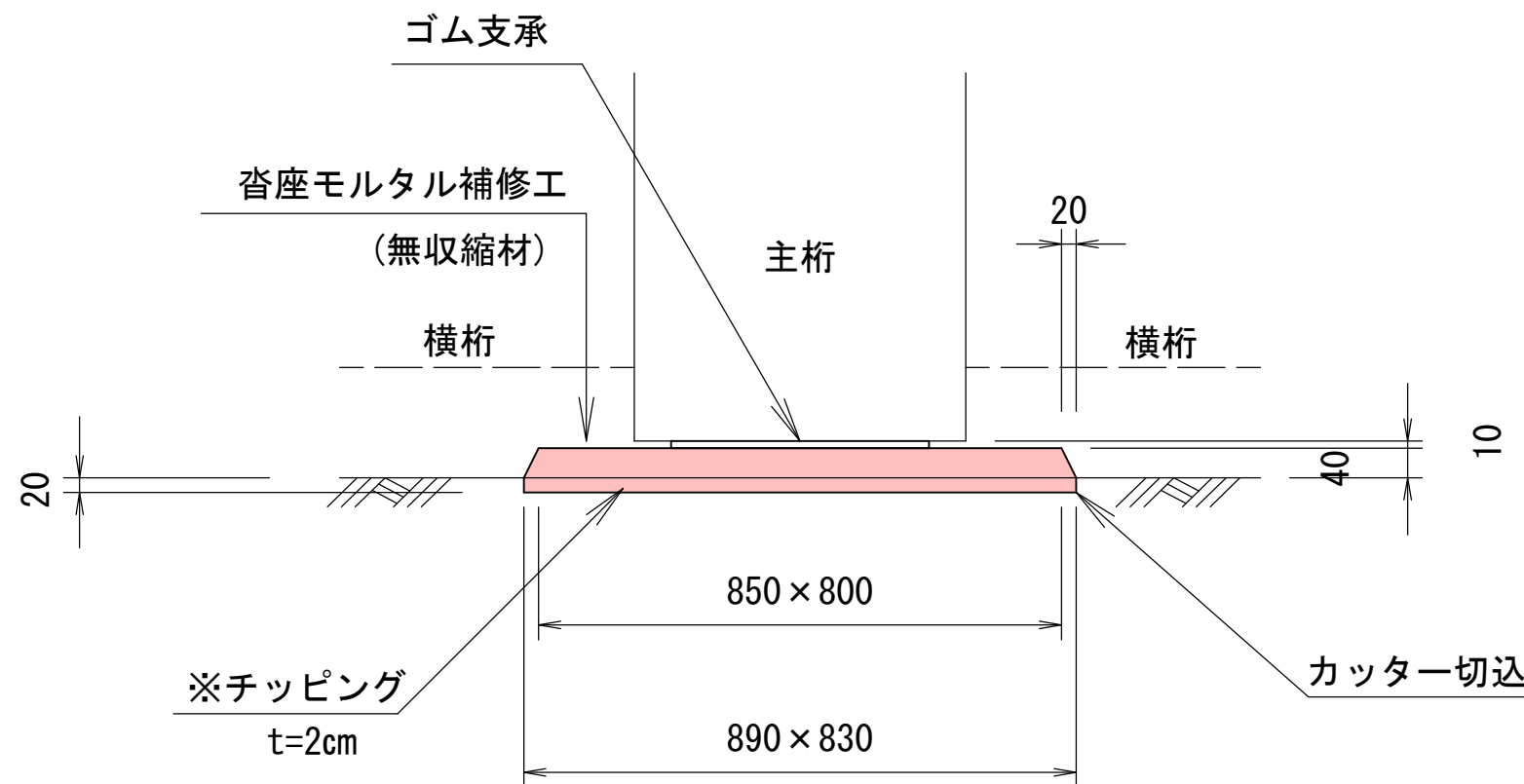
沓座モルタル補修工数量表(1箇所当り)

全箇所数 3箇所

工種	算 定 式	数 量	備 考
チップング	$A=0.47\text{m}^2$	0.47m ²	
沓座モルタル補修工	$V=(0.41+0.47)\div2\times0.04+0.47\times0.02=$	0.03m ³	
無収縮材	$V=(0.41+0.47)\div2\times0.04+0.47\times0.02=$	0.03m ³	
型枠	$A=(0.80+0.83)\div2\times0.04\times2+$	0.10m ²	
	$(0.85+0.89)\div2\times0.04=$		

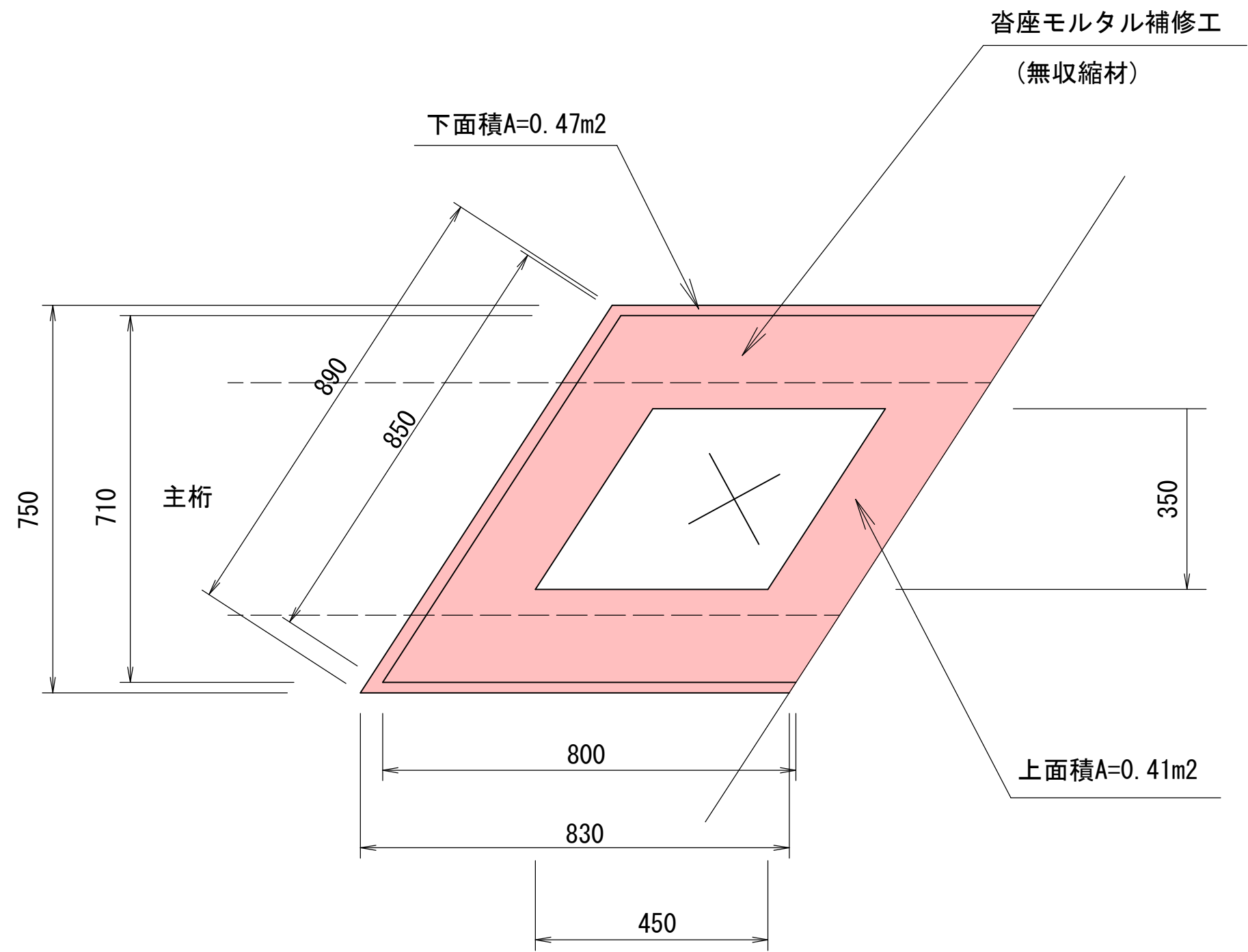
【注記】1. 施工時諸寸法は、現地計測により決定する。

正 面 図 S=1 : 10



※桁端下や添架物で作業が困難な場合は、目粗し程度を確保するほか、協議により対処工法を決定する。

平 面 図 S=1 : 10



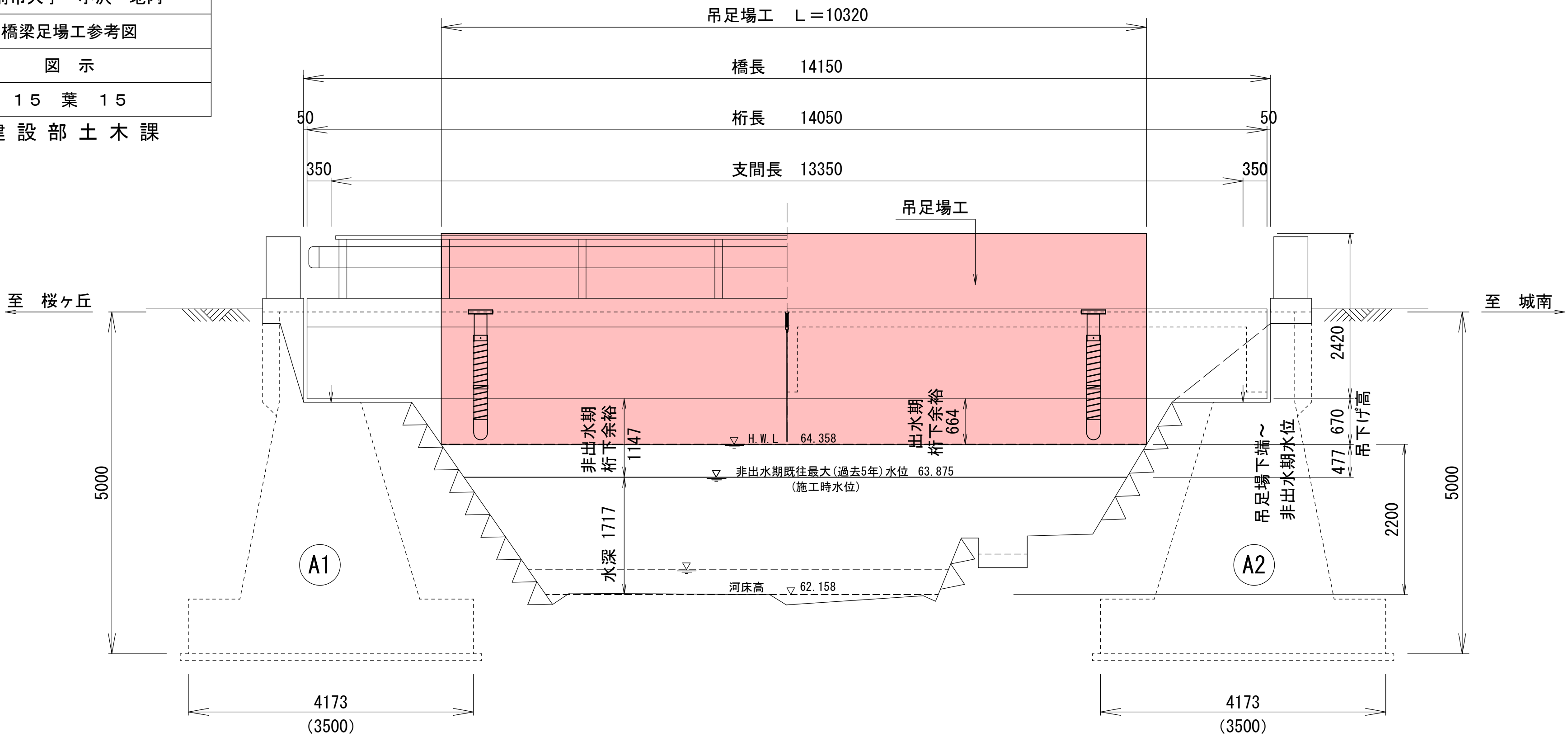
年 度	令 和 7 年 度
工 事 名	令和6年度 上山崎橋橋梁補修工事
路 線 名	桜ヶ丘12号線
施工箇所	弘前市大字 小沢 地内
図面名称	橋梁足場工参考図
縮 尺	図 示
図面番号	15 葉 15

弘 前 市 建 設 部 土 木 課

橋梁足場工参考図

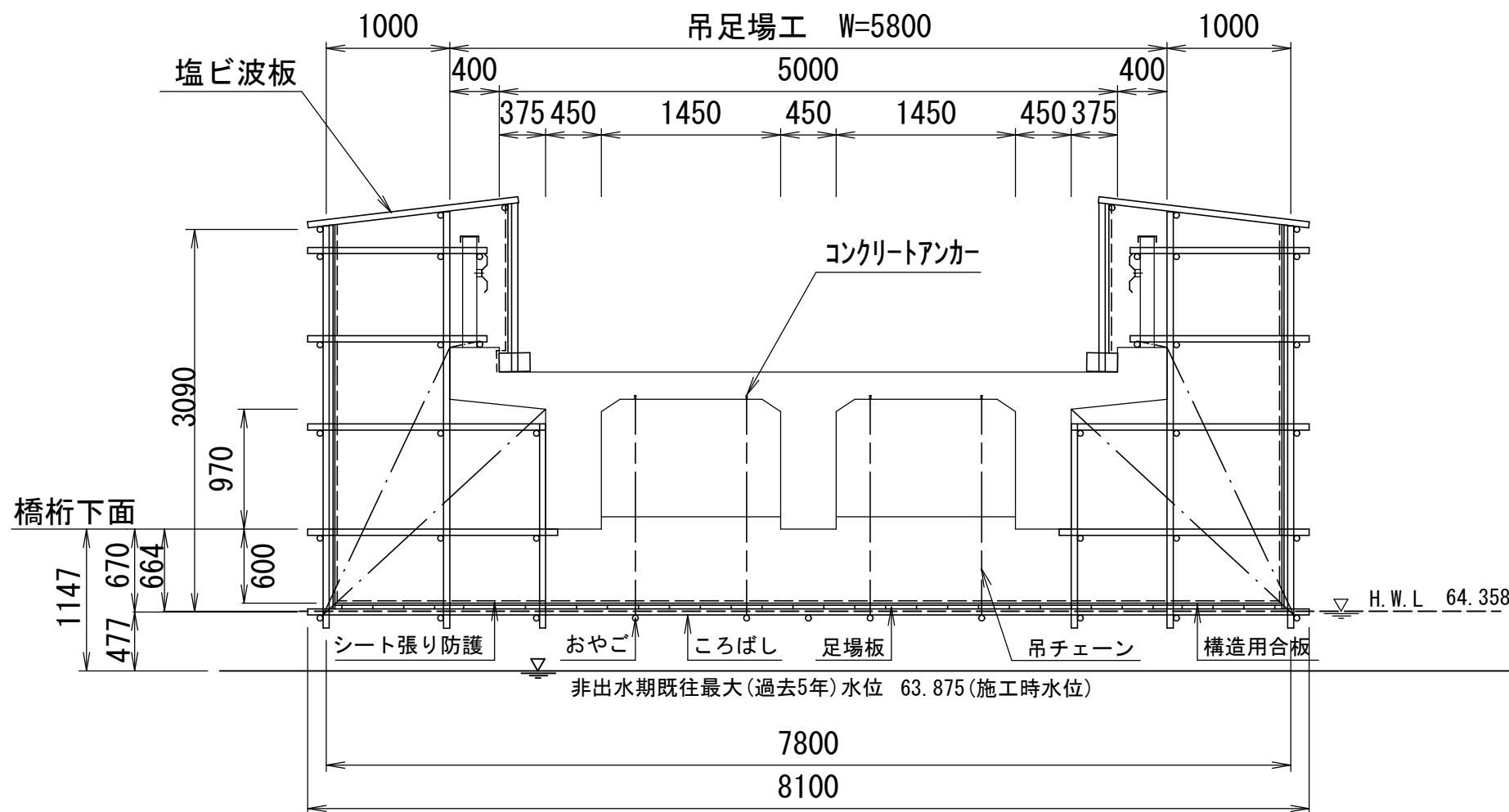
側 面 図

S=1 : 50



断 面 図

S=1 : 50



平 面 図

S=1 : 100

